

令和7年度(2025年度) 第1回
熊本市国指定等文化財の保存活用計画策定委員会
(史跡西南戦争遺跡) 次第

日時 令和7年(2025年) 8月6日(水) 13時30分～15時30分

会場 熊本市北区役所 2階 第1会議室

- 1 開会
事務局挨拶
- 2 委員紹介
- 3 委嘱状交付
- 4 事務局紹介
- 5 委員長・副委員長選任
- 6 事前説明
『西南戦争遺跡 田原坂総括調査報告書』(令和7年3月刊行) および
『西南戦争遺跡 明德官軍墓地調査報告書』(令和7年5月刊行) の
概要について
- 7 諮問
(1) 史跡西南戦争遺跡保存活用計画(案)について
ア) 計画対象地の位置づけと優先順位について (資料1)
イ) 第1章「計画策定の経緯と目的」の内容について (資料2)
ウ) 第2章「熊本市及び史跡周辺の概要」の内容について (資料3)
エ) 第3章「史跡の概要」の内容について (資料4)
- 8 その他
次回の案内
- 9 閉会

『西南戦争遺跡 田原坂総括調査報告書』および 『西南戦争遺跡 明德官軍墓地調査報告書』の概要について

01.調査に至る経緯と調査経過

- ・平成8年、文化庁から「近代遺跡調査実施要綱」の通知あり。全国的に近代遺跡の調査が開始される。
- ・平成15年、文化庁記念物課長から当時の植木町教育長宛てに「近代遺跡（軍事に関する遺跡）の詳細調査について」の依頼あり。
- ・平成20年、文化庁調査官による西南戦争遺跡の現地視察を実施。
- ・同時期に、玉東町教育委員会も西南戦争遺跡の調査を開始。
- ・平成21年8月、「植木町・玉東町西南戦争遺跡連携保存活用協議会」が発足。
- ・平成21年10月、植木町教育委員会が田原坂周辺の調査を開始（市町村合併後、熊本市教育委員会が引き続き調査）。
- ・平成25年3月、西南戦争遺跡が国の史跡に指定。
- ・指定後も調査を継続。令和6年度末、総括報告書を刊行。

02.調査の目的

- ・田原坂周辺は従来、伝聞や文献資料等に頼り、価値づけが不十分。
⇒ 西南戦争遺跡の学術的価値が高いことを証明する。

03.西南戦争の概要

- ・明治10年（1877）、西郷隆盛率いる旧薩摩藩士を中心とした薩摩軍が明治政府の軍隊（政府軍）と衝突した、日本最後の内戦。
- ・理由：明治新政府の専制的な体制や政策に対する反発。
- ・その後：政治は武力を伴わない言論の世界へと移行する。

04.西南戦争遺跡の定義

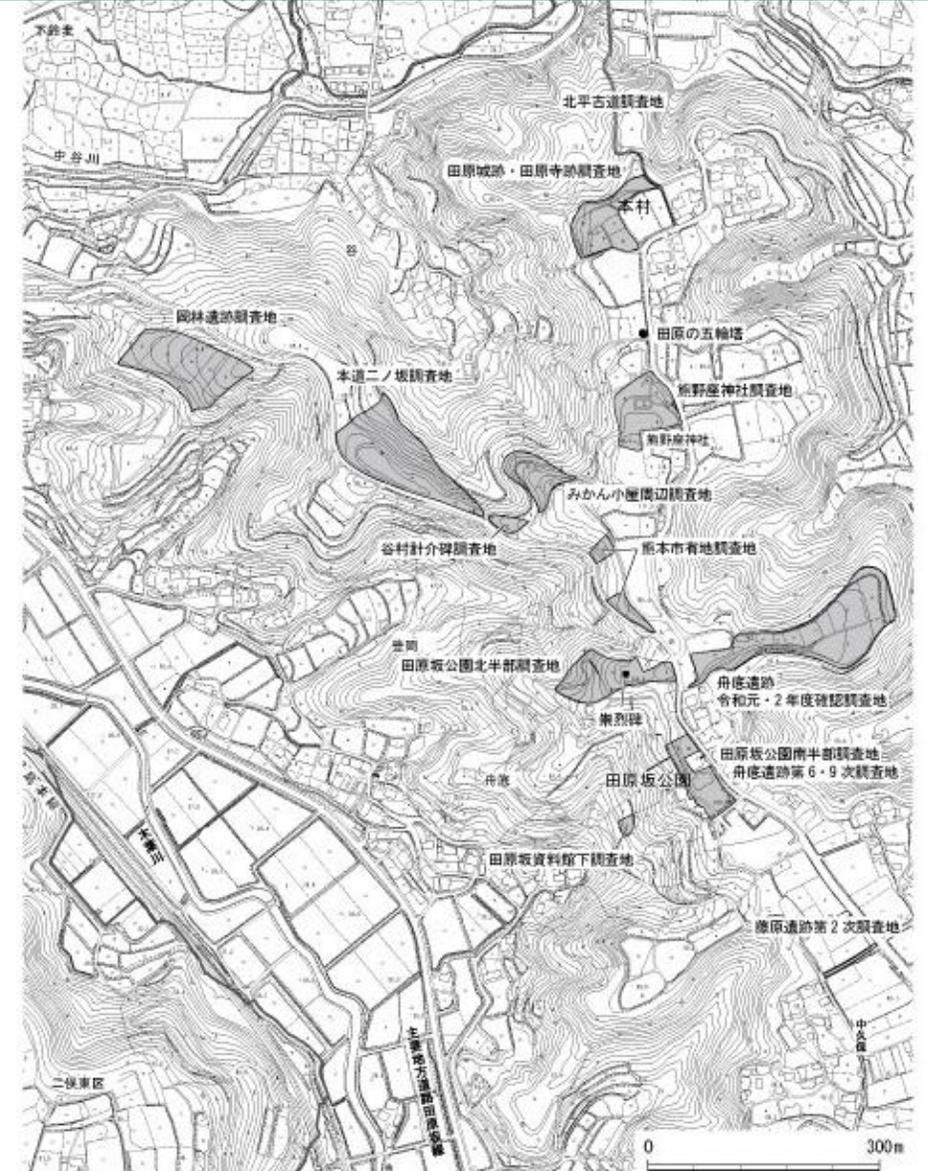
- ・過去に発掘調査例があり、遺物や遺構が検出された。
- ・小銃弾、薬莢、砲弾片などの軍用遺物の散布が認められる。
- ・過去に耕作などで遺構や遺物が確認された。
- ・塹壕跡などの遺構があらわれている。
- ・弾痕や銃砲弾が残る建物、石造物、石積などが確認される。
- ・銃砲弾を内蔵する樹木類が現生する、あるいは過去に伐採された。
- ・戦場の後方に関わる施設（本営跡、弾薬製造地跡、繃帯所跡など）。
- ・顕彰碑、慰霊碑などの記念碑や両軍の墓地。
- ・現在の地名や地形で当時の写真や絵図などと合致する場所がある。

『西南戦争遺跡 田原坂総括調査報告書』および 『西南戦争遺跡 明德官軍墓地調査報告書』の概要について

05.調査対象地域

文献調査や現地の聞き取り調査により、調査対象地域を設定。

1. 北平古道（田原坂本道と合流する激戦地）
2. 田原城跡・田原寺跡
3. 熊野座神社（薩摩軍の主要陣地）
4. みかん小屋（三の坂攻防戦の最前線）
5. 田原坂二の坂（両軍衝突の最前線）
6. 谷村計介碑（出先陣地）
7. 市有地（田原坂本道に接する斜面、三の坂激戦の中心部）
8. 田原坂公園北・南、資料館下（本道守備の要地、旧状の地形を残す）
9. 岡林遺跡（小銃弾があったとの伝承）
10. 豊岡の眼鏡橋（当時の道路幅を残す）
11. 崇烈碑（明治13年建立、政府軍戦死者を顕彰）
12. 田原の五輪塔（市指定文化財、弾痕を残す）
13. 七本官軍墓地（明治11年設立、政府軍の戦死者を葬る）
14. 七本薩軍墓地（台場跡に薩摩軍戦死者を纏めて葬った）
15. 明德官軍墓地（七本官軍墓地に同じ）⇒別冊報告書



豊岡台地上の調査位置（『西南戦争遺跡 田原坂総括調査報告書』より抜粋）

『西南戦争遺跡 田原坂総括調査報告書』および 『西南戦争遺跡 明德官軍墓地調査報告書』の概要について

06.調査の成果（全体概要）

●西南戦争関係遺物

薬莖、小銃弾（スナイドル銃、エンフィールド銃、ウエストリーリチャーズ銃など）、霰弾子、未使用弾、砲弾片、信管、筍翼、霰弾子、雷管、摩擦管、真鍮製ネジ釘、鉄製ネジ釘、靴底金具、鉄鍋片、小銃弾陶栓、白色石灰岩（崇烈碑の石屑）、白色ガラス釘 など

●西南戦争関係遺構

陣地状遺構、溝状凹部遺構、塹壕跡、土手状遺構、砲弾着弾跡、仮埋葬壙、土取場 など

●その他の遺物

蹄鉄、工具、銭貨、土器・陶磁器類、粘板岩製石版、銅製釘、鉛玉、瓦、鉄製品、銅製品 など

●その他の遺構

土坑（古代土坑）、江戸時代墳墓 など

●両軍墓地

- ・墓石配置や墓石の情報（規模、銘文など）、墓地の整備・改装の状況、墓石の製作技術などを精査
- ・埋葬者の情報を整理、出身地・所属・戦死地などを翻刻しグラフ化

●その他

- ・銃砲弾を内包した樹木
- ・弾痕のある石造物、建造物
- ・文献調査による戦闘状況の把握と発掘調査との照合
- ・自然科学分析による遺構に残存した植物の同定とその利用

各構成要素の
詳細な調査結果は
第4章以降で
随時説明予定

計画対象地の位置づけと優先順位について

○計画対象地の位置づけ

A：本質的価値を構成する要素（現在の国指定地）

A'：国指定地外であるが本質的価値と同等あるいは価値を裏付ける要素（追加指定候補）

B：指定地外であるが本質的価値と関連する要素

C：そのほかの要素

区分	範囲	所有者
A	田原坂本道（一の坂、二の坂、三の坂、谷村計介碑）	市
A	田原坂公園（崇烈碑・慰霊塔含む）	市
A	豊岡の眼鏡橋	市
A・A'	大クスノキ	市・民有地
A'	七本官軍墓地	国（市に無償貸付）
A'	明德官軍墓地	国（市に無償貸付）
A'	寄鶴官軍墓地	民有地
A'	田原坂本道周辺本調査地（みかん小屋周辺調査地ほか）	市・民有地
B	七本柿木台場薩軍墓地	市
B	田原熊野座神社	民有地
B・C	田原坂から玉東町方面を望見できる範囲	民有地

○今後 10 年間の保存活用の計画(優先順位)

1. 七本官軍墓地、明德官軍墓地の国指定史跡への追加指定
2. 国指定地全体および関連地の看板整備（既存看板の改修、玉東町とデザインの統一など）
3. 官軍墓地内のき損墓石等の復旧検討調査の開始、並行して一時的な建替えのための複製品の作製及び設置
4. 田原坂公園内の大クスノキの範囲の国指定史跡への追加指定と公有地化
5. 寄鶴官軍墓地の追加指定に向けた所有者調査

【史跡西南戦争遺跡保存活用計画 熊本市編 章立て（案）】

第1回委員会にて諮問

第1章 計画策定の経緯と目的

- 第1節 計画策定の経緯
- 第2節 計画策定の目的
- 第3節 委員会の設置と経緯
- 第4節 計画の対象範囲
- 第5節 関係法令・計画等
- 第6節 計画期間

第2章 熊本市及び史跡周辺の概要

- 第1節 地理的環境
- 第2節 社会的環境
- 第3節 歴史的環境
- 第4節 史跡周辺の文化財

第3章 史跡の概要

- 第1節 指定に至る経緯
- 第2節 調査研究の概要
- 第3節 指定の状況
- 第4節 指定後の調査成果

第4章 史跡の本質的価値

- 第1節 史跡の本質的価値
- 第2節 史跡の副次的価値
- 第3節 構成要素

第5章 大綱と基本方針

- 第1節 史跡の保存活用の大綱
- 第2節 史跡の保存活用の基本方針
- 第3節 各要素の保存活用の基本方針

第4節 計画の対象範囲（例）

- ・西南戦争遺跡（現国指定地）
- ・未指定民有地（追加指定候補）
- ・七本官軍墓地、明德官軍墓地、寄鶴官軍墓地（現県指定地、国指定追加候補）
- ・田原坂および公園隣接地（遺構・遺物残存の可能性のある範囲および景観を形成する範囲）
- ・豊岡の眼鏡橋に接続する範囲（道幅）
- ・未指定の関連地（田原熊野座神社、七本柿木台場薩軍墓地など）

第6章 史跡の保存管理

- 第1節 保存管理の現状と課題
- 第2節 保存管理の基本方針
- 第3節 保存管理の方法
- 第4節 現状変更等の取り扱い
- 第5節 追加指定

第7章 史跡の活用

- 第1節 活用の現状と課題
- 第2節 活用の基本方針
- 第3節 活用の方法

第8章 史跡の整備

- 第1節 整備の現状と課題
- 第2節 整備の基本方針
- 第3節 整備の方法

第9章 史跡の管理・運営体制

- 第1節 管理・運営体制の現状と課題
- 第2節 管理・運営体制の基本方針
- 第3節 管理・運営体制の方法

第10章 実施計画と経過観察

- 第1節 施策の実施計画
- 第2節 経過観察の方法

参考資料等(抜粋、以下例)

- ・文化財保護法
- ・文化財保護法施行令
- ・特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請等に関する規則
- ・河川法
- ・都市計画法
- ・熊本県文化財保護条例
- ・熊本市景観条例
- ・熊本市附属機関設置条例（熊本市国指定等文化財の保存活用計画策定委員会） など

※文中の網掛けは内容未定を指す

第1章 計画策定の経緯と目的

第1節 計画策定の経緯

西南戦争遺跡は明治 10 年（1877 年）に起こった西南戦争の激戦地およびその関連地で構成される遺跡群であり、平成 25 年 3 月 27 日に国の史跡に指定された。史跡は熊本市北部とその西隣接の玉東町にまたがって所在し、熊本市側は道路、石橋、公園などで構成されている。

西南戦争遺跡を構成する田原坂（熊本市）や吉次峠（玉東町）は、西南戦争における初期の戦場であり最大の激戦地である。当該地については以前よりその重要性が認識されており、田原坂公園では西南戦争後 80 周年にあたる昭和 32 年に「西南役戦没者慰霊之碑」（通称「慰霊塔」および「慰霊碑」）を建立して周囲の公園の拡充整備を実施し、昭和 58 年には田原坂資料館（平成 27 年に「熊本市田原坂西南戦争資料館」にリニューアル）が建設された。その後も公園整備や行事などが実施され、地域振興の大きな柱としてその歴史を継承してきた。

このような中で、平成 8 年に文化庁より出された「近代遺跡調査実施要項」において、西南戦争遺跡は本要項が対象とする調査遺跡の選択基準を満たすものであった。平成 15 年 11 月には文化庁記念物課長から「近代遺跡（軍事に関する遺跡）の詳細調査について」の依頼があり、平成 20 年 6 月には文化庁調査官の現地視察がなされた。この時、隣接する玉東町教育委員会で西南戦争遺跡の調査が開始されたことが判明し、また同年の国道建設事業に先行して発掘調査を実施した山頭遺跡では多数の小銃弾や薬莖などの西南戦争関連遺物が出土し、官軍の塹壕跡も確認された。

以上のことから、急速に西南戦争遺跡の調査・保護に対する機運が盛り上がり、平成 21 年 8 月には「植木町・玉東町西南戦争遺跡群連携保存活用協議会」が発足し、国指定史跡に向けて両町が連携を図ることとなり、植木町教育委員会では平成 21 年 10 月から田原坂周辺の調査を開始した。平成 22 年度に植木町と熊本市が合併したことに伴い、同年度以降は熊本市教育委員会が調査主体となった。平成 25 年 3 月 27 日に国の史跡に指定されてからも熊本市は単独で調査を続け、令和 7 年 3 月にこれまでの調査成果をまとめた総括報告書を刊行した（調査の詳細は第 3 章）。

周知啓発事業については、平成 22 年度より玉東町と連携して戦跡の保護・活用に努め、平成 24 年度まで市民向けに「戦跡ガイド養成講座」を実施した。平成 25 年度からは「西南戦争歴史講座」と改称し、直近の調査報告や戦跡をめぐるウォーキング、学識経験者等を招いた座学などを実施し、現在まで継続して西南戦争とその戦跡の周知に努めている。

西南戦争遺跡がまたがる玉東町は平成 28 年（2016 年）に保存活用計画を策定しており、熊本市でも西南戦争遺跡とその関連地も含めた一体的な保存と活用、および玉東町と足並みを合わせた整備を図るため、令和 7 年度より国庫補助事業として『史跡西南戦争遺跡保存活用計画（熊本市編）』を策定するための委員会を立ち上げ、内容の検討を行った。

なお、玉東町域の西南戦争遺跡に関しては前述の玉東町が策定した保存活用計画（『史跡

西南戦争遺跡保存活用計画（玉東町編）』で既に言及されているため、本計画は熊本市に所在する史跡および関連地にのみ言及する。

第2節 計画策定の目的

本計画は、西南戦争遺跡とその関連地の本質的価値およびそれらを構成する要素を広く共有し、その適正な保存活用の基本方針や現状変更等の史跡の保存管理における取り扱い方針、整備の基本的な考え方や適切な管理・運営体制等の方向性を定めることを目的とする。それにより、西南戦争遺跡とその関連史跡を将来にわたって保存し、次の世代へつなげていくとともに西南戦争が「日本最後の内戦」と呼ばれ続けるように啓発を続けていく。

第3節 委員会の設置と経緯

1 委員会の設置

史跡西南戦争遺跡保存活用計画（熊本市編）の策定にあたっては、保存及び活用・整備にかかる基本方針に関することを検討・審議するために、令和7年7月15日に「熊本市国指定等文化財の保存活用計画策定委員会（西南戦争遺跡）」（以下、「策定委員会」）を設置した。

（1）策定委員会（五十音順、敬称略）

	氏名	役職	専門分野
委員	浅川 道夫	日本大学教授	軍事史
委員	落合 弘樹	明治大学教授	日本近代史
委員	小畑 弘己	熊本大学名誉教授	考古学
委員	高木 恭介	元植木町教育長	地元
委員	平山 愛	植木温泉 女将	地元
委員	前川 清一	熊本市文化財保護委員会委員長	石造物

任期：令和7年7月15日～令和9年3月31日

（2）オブザーバー

氏名	役職
〇〇 〇〇	文化庁文化財部史跡部門調査官
能登原 孝道	熊本県教育庁教育総務局文化課
〇〇 〇〇	玉東町教育委員会

(3) 庁内部会

関連計画や関連事業との整合性を図り、保存活用における方向性を明確にするため庁内部会を設置し、各意見を計画に反映させた。構成部局は以下の通り。

北区役所 区民部 北区土木センター維持課
 北区役所 区民部 北区土木センター植木地域整備室
 北区役所 区民部 植木まちづくりセンター
 北区役所 区民部 北部まちづくりセンター
 農水局 北東部農業振興センター 農業振興課
 経済観光局 観光交流部 観光政策課
 文化市民局 文化創造部 文化財課（事務局）

2 委員会開催の経緯

策定委員会は、令和7年度（2025年度）に3回、令和8年度（2026年度）に3回、合計6回開催する予定である。

第4節 計画の対象範囲

本市には西南戦争の痕跡を残す場所や遺跡等は数多く存在するが、本計画における対象範囲は、国指定史跡西南戦争遺跡およびその周辺の関連地とする。詳細は下記のとおり。なお、対象範囲に所在する石造物や建造物については別途詳述する。

①史跡西南戦争遺跡の指定地

- ・田原坂本道（一の坂、二の坂、三の坂）および谷村計介碑
- ・田原坂公園
- ・豊岡の眼鏡橋

②官軍墓地

- ・熊本県指定史跡 七本官軍墓地
- ・熊本県指定史跡 明德官軍墓地
- ・熊本県指定史跡 寄鶴官軍墓地

③西南戦争当時の景観を形成する範囲

- ・田原坂および田原坂公園隣接地
- ・田原坂から二俣台地（玉東町）方面への景観に関わる範囲
- ・豊岡の眼鏡橋に接続する範囲（道幅）

④未指定の関連地

- ・田原熊野座神社
- ・七本柿木台場薩軍墓地 など

※対象範囲図挿入

第5節 関係法令・計画等

1 関連法令

本計画の策定にあたって考慮すべき関係法令は以下の通り。(表□参照)

(1) 文化財保護法

本計画の対象である西南戦争遺跡は、文化財保護法第 109 条第 1 項に基づき指定された国指定史跡である。そのため指定地は文化財保護法の対象となり、その範囲で現状を変更し又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化財保護法第 125 条第 1 項に基づいた文化庁長官の許可を得る必要がある。文化財保護法第 129 条の 2 により「史跡名勝天然記念物の管理団体又は所有者は、文部科学省令で定めるところにより、史跡名勝天然記念物の保存及び活用に関する計画（以下「史跡名勝天然記念物保存活用計画」という。）を作成し、文化庁長官の認定を申請することができる」と定められている。

また、史跡周辺は周知の埋蔵文化財包蔵地であり、土木工事等調査以外の目的で当該地を発掘しようとする場合には、文化財保護法第 93 条第 1 項に基づく届出あるいは同第 94 条第 1 項に基づく通知が必要である。

(2) 河川法

西南戦争遺跡の範囲内である豊岡の眼鏡橋は、菊池川水系の準用河川（中谷川）に接している。

(3) 都市計画法

西南戦争遺跡の指定地および本計画で対象とする範囲の一部は、市街化調整区域および都市計画法第 34 条第 11 号に基づく区域（集落内開発制度指定区域）、あるいは用途地区に指定されている。対象となる範囲については図○に示す。

(4) 都市公園法

田原坂公園、七本墓地公園（七本官軍墓地）、薩軍墓地公園（七本柿木台場薩軍墓地）は都市公園に位置付けられている。これにより、公園内で公園施設以外の工作物その他の物件又は施設を設けて都市公園を占用しようとするときは、公園管理者の許可を受けなければならないとされている。

(5) 森林法

二の坂、三の坂周辺および西南戦争遺跡周辺の景観に関わる範囲が森林法による地域森林計画区域の範囲である。これにより対象の範囲内にある民有林の樹木を伐採する際は、伐採を開始する 90 日前から 30 日前までの間に、熊本市長に「伐採及び伐採後の造林の届出

書」の提出が必要である。

(6) 道路法

田原坂本道（一の坂、二の坂、三の坂）、中谷川に架かる豊岡の眼鏡橋及び当該橋梁に接続する道路は市道認定されており、道路管理者以外の者が道路に関する工事又は道路の維持を行う場合は道路管理者の承認が必要である。また、当該道路に工作物、物件又は施設を設け、継続して道路を使用しようとする場合においては、道路管理者の許可を受けなければならない。

(7) 国有財産法

七本官軍墓地および明德官軍墓地は国有地である。国有財産法第 22 条第 1 項に基づき熊本市が無償貸付を受けている。

(8) 熊本県文化財保護条例

七本官軍墓地、明德官軍墓地、寄鶴官軍墓地は、熊本県文化財保護条例第 35 条第 1 項に基づき指定された県指定史跡である。そのため、同条例第 39 条第 1 項の規定に基づき、その現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとする者は、あらかじめ、教育委員会の許可を受けなければならない。

表□

対象地	関係法令
史跡西南戦争遺跡指定地	文化財保護法 河川法 都市計画法（法第 34 条第 11 号指定区域、市街化調整区域） 都市公園法 森林法 道路法
七本官軍墓地	国有財産法 都市計画法（市街化調整区域） 熊本県文化財保護条例 都市公園法
明德官軍墓地	国有財産法 都市計画法（用途地区） 熊本県文化財保護条例
寄鶴官軍墓地	都市計画法（市街化調整区域）

	熊本県文化財保護条例
西南戦争遺跡周辺の景観を形成する範囲	都市計画法（市街化調整区域、法第 34 条第 11 号指定区域） 森林法
未指定の関連地	都市計画法（市街化調整区域、法第 34 条第 11 号条例指定区域） 森林法

2 関連計画

本計画の策定にあたり、整合・関連を図るべき計画を以下に示す。

(1) 熊本市第 8 次総合計画【令和 6 年（2024 年）3 月策定】

本市における最上位の計画。本計画と関わる内容は以下の通り。

ビジョン 2 市民に愛され、世界に選ばれる、持続的な発展を実現するまち
2-2 世界を魅了する都市ブランドの向上 豊かな水と緑、歴史と文化、にぎわいに満ちた中心市街地など本市の魅力を最大限に引き出し、世界が憧れ、市民が誇りを感じるまちをつくります。
ビジョン 6 すべての市民がより良い暮らしを営むまち
6-4 文化芸術が持つ多様な価値の活用 本市が誇る歴史的・文化的遺産が適切に保存されるとともに、文化芸術に触れる機会が多く提供され、多くの市民が文化芸術に親しめるまちづくりを進めます。

(2) 熊本市文化芸術推進基本計画【令和 7 年（2025 年）3 月策定】

基本施策Ⅲ 文化芸術の継承と活用
<取組 1>文化財や伝統文化・食文化等の継承 <取組 2>シビックプライドの醸成と地域コミュニティの活性化

(3) 第 4 次熊本市環境総合計画【令和 4 年（2022 年）3 月策定】

基本方針 3 歴史的・文化的環境をまもり、次世代につなぐ
施策 3-1 文化財等を保存し活用する 地権者や継承団体などの理解や協力を得ながら、計画的に有形・無形文化財や民俗文化財・史跡・名勝・天然記念物などの歴史的・文化的遺産を調査するとともに、適正に保存・整備・活用し後世に継承していきます。

(4) 第 2 次熊本市都市マスタープラン（地域別構想）【平成 30 年（2018 年）9 月改訂】

4) 自然環境保全及び公園緑地等公共空地整備
①自然環境の保全

【豊かな自然環境の保全・活用】

・田原坂、岩野山の周辺は、歴史文化と一体となった貴重な自然環境や生物多様性の保全・活用を図ります。

③レクリエーション拠点

【身近な自然環境を活用したレクリエーション拠点の整備】

・田原坂は、田原坂公園を中心に観光・レクリエーション拠点としての活用を推進します。

(5) 熊本市教育振興基本計画【令和6年度(2024年度)～9年度(2027年度)】

基本方針(6) 市民が身近に親しめる文化芸術の振興

②歴史的文化遺産の調査研究、保存整備と活用

(6) 熊本市観光マーケティング戦略【令和6年(2024年)3月策定】

基本施策1－(3) 観光資源の魅力創出

戦略プログラム① 歴史文化のストーリー化による回遊性向上

第6節 計画期間

本計画の計画期間は、策定の日から10年間とする。なお、記載している施策・事業の進展や地域社会等の変化等への対応を考慮し、必要に応じて計画内容を見直しながらか引き続き検討を進める。

熊本市の施策・事業について具体的な内容は「第10章 実施計画と経過観察」に示す。

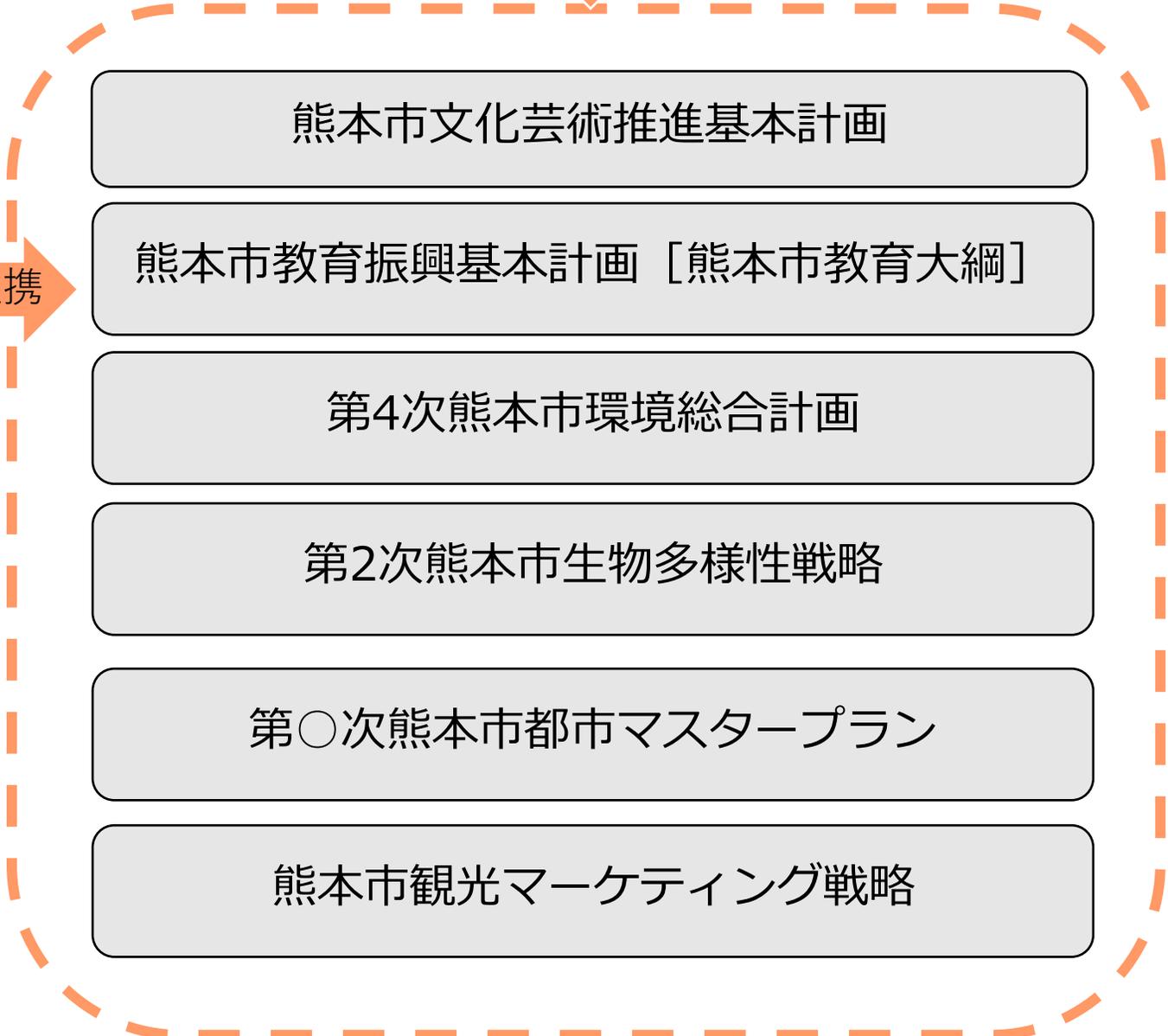
【最上位計画】
熊本市第8次総合計画
基本構想：めざすまちの姿「上質な生活都市」
計画期間：令和6年度（2024年度）～令和13年度（2031年度）



西南戦争遺跡保存活用計画（熊本市）



熊本県文化財保存活用大綱



熊本市文化芸術推進基本計画

熊本市教育振興基本計画 [熊本市教育大綱]

第4次熊本市環境総合計画

第2次熊本市生物多様性戦略

第〇次熊本市都市マスタープラン

熊本市観光マーケティング戦略

第2章 熊本市及び史跡周辺の概要

第1節 地理的環境

1 熊本市の位置・地勢

熊本県は九州地方の中央部に位置する。その県庁所在地である熊本市は、熊本県の西北部、東経 130 度 42 分、北緯 32 度 48 分に所在する。熊本市の地勢は、北東部の京町台地・託麻台地と西南部に広がる沖積低地により形成される。水系は、阿蘇外輪火山を源とする白川が市中央部を貫流し、白川によって運ばれた砂礫や火山灰は託麻台地端部に扇状地を形成し、広大な沖積平野（熊本平野）をなす。白川、坪井川、井芹川、加勢川、緑川等の諸河川が下流部の熊本平野を潤し、有明海へと注ぐ。

熊本平野の北側は、北西部に位置する金峰山を主峰とする複式火山帯とこれに連なる立田山等の台地からなり、県北の菊池平野と画されている。平野東側は阿蘇外輪火山群によって形成された丘陵地帯であり、平野との境は複雑に入り組んでいる。南側では緑川水系と平野が広がり、台地や丘陵によって寸断されながら八代平野に至る、平野の西側には、水田として利用されている干拓地があり、有明海に面している。阿蘇周辺に降った雨水は地下に浸透して豊富な地下水となり、台地端部で水前寺成趣園や江津湖などの地表に湧出する。豊富な湧水は市域における遺跡の成立に大きく影響を与え、市城南側の沖積平野では白川や緑川などの現流路沿いに自然堤防が散在する。これが微高地となって枝状に発達し、白川を基準に南へ向かって扇状に広がる。熊本市一帯には、阿蘇火山の火砕流を伴う大噴火の影響より、約 9 万年前に Aso-4 火砕流堆積物が堆積した。その後、河川によって浸食され、各地に火砕流台地が形成される。さらに、その生成過程で河岸段丘も形成された。中央区京町付近から北区植木町方面へ続く京町台地も、この Aso-4 火砕流堆積物からなる台地である。なお、熊本城はこの京町台地の南端に位置し、火砕流台地は先に述べた金峰火山の山麓にも分布している。

2 史跡周辺の位置と地勢

西南戦争遺跡が所在している熊本市北区植木町は、熊本市の西北部、東経 130 度 41 分、北緯 32 度 54 分に位置する。熊本市北区植木町の前身である旧植木町は、平成 22 年に熊本市と合併し、平成 24 年の政令指定都市移行に伴い、旧植木町の全域が熊本市北区に編入された。

植木町の地勢は、熊本県における洪積台地の典型とされる広大な肥後台地のうち、北西端に形成された植木台地とそれを開析する大小の谷部からなる。植木台地は標高約 60～100 m、南北方向に長い台地であり、東は菊池川支流の合志川と白川支流の坪井川によって画され、西は金峰山系の三ノ岳山体に接している。北には菊鹿盆地が広がり、南には京町台地が連続しており、その向こうに熊本平野が開けている。

本計画で主に取り扱う西南戦争遺跡は、植木台地の西部、豊岡台地と通称される半独立丘陵とその周辺に存在している。豊岡台地は西側を菊池川支流の木葉川に、東側と北側をその

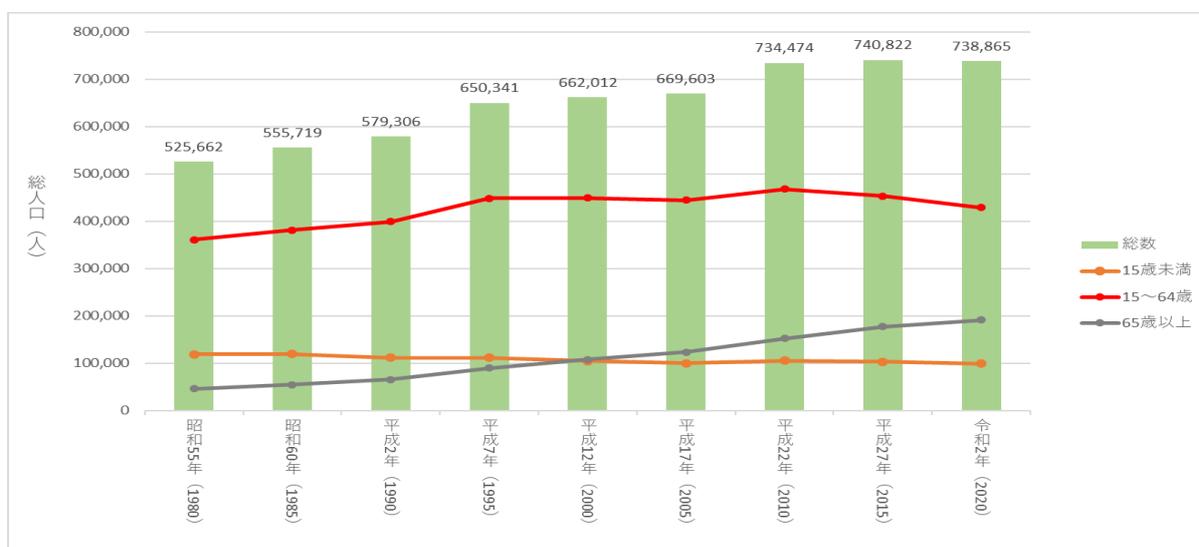
支流の中谷川によって浸食された、南北延長約 1.6 kmの南北方向に長い台地である。南側は東西両方向からの浸食谷によって緩やかに分断され、付近の字を「境」（大字豊岡の南端）と言い、以南を大字「轟」という。台地傾斜は急こう配で、縁辺には小支谷が複雑に入り組んでいる。これによって分断された舌状の小丘陵が発達しており、戦時においては守備に適した要害地形と言える。本台地には旧三池往還が貫通しており、そのうち北西部の長さは約 1.5 km、標高差 80mの坂道が田原坂である。

第2節 社会的環境

1 熊本市の人口

熊本市は、平成 3 年 2 月に北部町、飽田町、天明町、河内町と合併し、平成 20 年 10 月には富合町、平成 22 年 3 月には城南町、植木町と合併して市域が拡大する。面積 390.32 平方キロメートル、人口約 74 万人の市となり、平成 24 年 4 月に全国で 20 番目、九州で 3 番目の政令指定都市へと移行した。

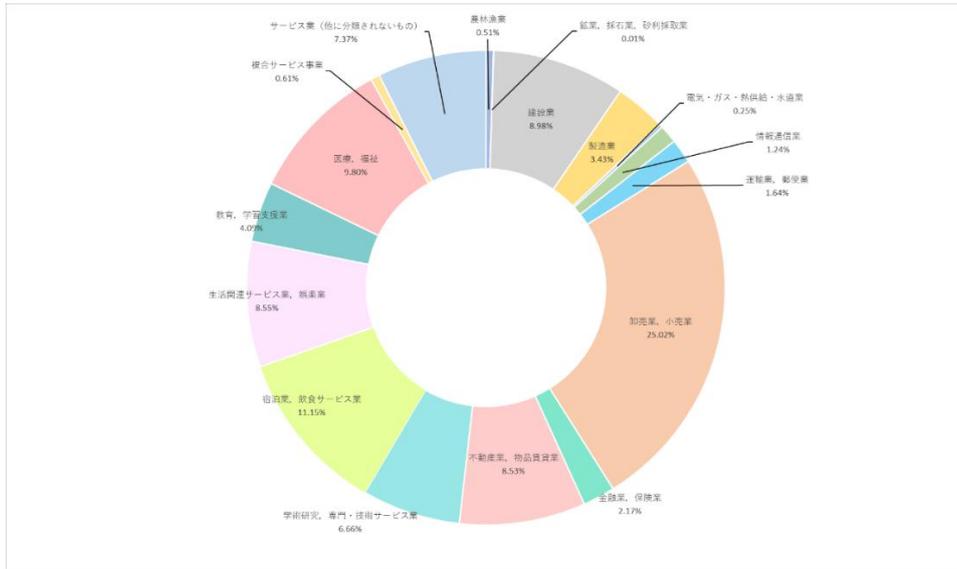
市内の人口は令和 2 年に初めて減少に転じ、年齢 3 区分では平成 12 年に 65 歳以上人口が 15 歳未満人口を上回って以来、高齢層の増加が顕著である。15 歳未満および 15～64 歳の人口は緩やかな減少傾向にあり、全国的な高齢化社会の様相と同様である。



図〇 人口と年齢3区分別の推移（国勢調査の数値を基に算出）

2 熊本市の産業

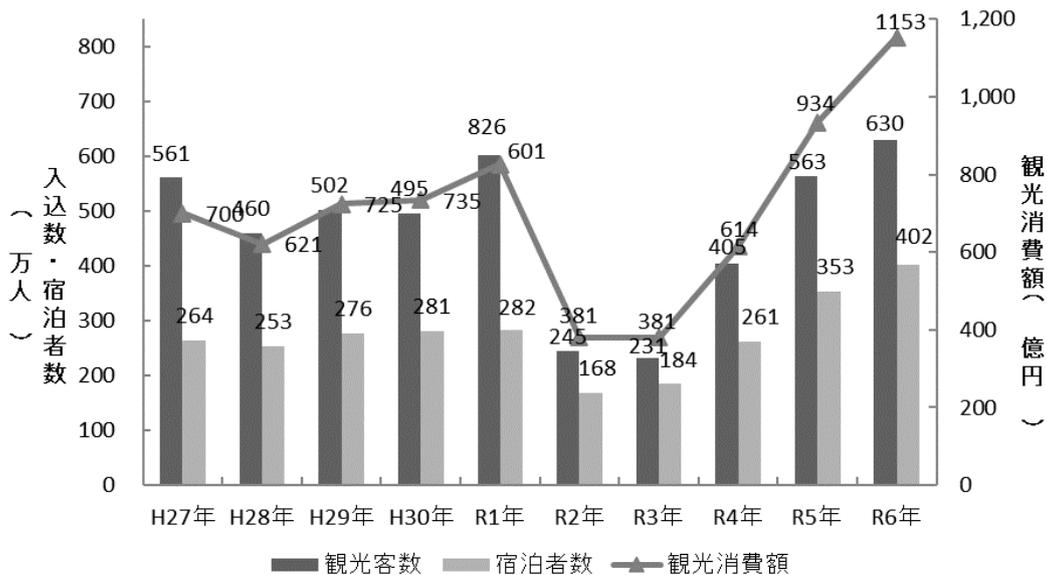
産業に関しては主にサービス産業が中心である。全産業のうち約 34%をサービス関連産業が占めており、次点で卸売業・小売業が盛んである。そのほか、IC 産業の集積、全国でも高い生産性を誇る都市型農業、水産業などが展開されており、近年では TSMC の進出による半導体関連産業の更なる発展が期待されている。



図〇 産業(小分類)別全事業所数 (参考：令和3年度経済センサス活動調査)

3 熊本市の観光

観光面では、特別史跡熊本城跡、名勝及び史跡水前寺成趣園、動植物園の3施設を核として観光客数は増加傾向にある。特に令和6年(2024年)からは、円安の進行による訪日外国人の急激な増加を背景に、TSMCの熊本進出による台湾をはじめとしたアジア各国との観光・ビジネス交流が活発化し、阿蘇くまもと空港の国際線定期便の新規就航や増便が相次いだことで外国人観光客が大幅に増加している。(参考：令和6年(2024年)熊本市観光統計)



図〇 観光客入込数・宿泊者数・観光消費額の推移 (出典：令和6年(2024年)熊本市観光統計)

第3節 歴史的環境

1 史跡周辺の歴史

史跡周辺では、過去の調査により古くは平安時代前期（9世紀前半）の遺跡が多く発見されている。特に神ノ木川・菖蒲川流域において濃密であり、この地域の主な遺跡では土師器焼成遺構を検出した田子山遺跡、越州窯系青磁水注（市指定文化財）を供献した土壙墓を検出した塔ノ本遺跡、3×3間の礎石が並ぶ基壇が検出され塔が存在したとみられる富応廃寺が挙げられる。これらが所在する台地に囲まれ、菖蒲川によって開析された比較的広い谷部には「五反田」「六反田」と言った数詞地名（小字）が見られる。開発等によって当時の地割は不明だが、当時条里制に基づく耕地整備がなされ上記の遺跡が成立する基盤になったと考えられる。現在の植木町域は、古代山本郡の範囲とほぼ同じである。山本郡は貞観元年（859年）に合志郡から分立したものであり、上記の遺跡分布の状況が分立の契機と関連があると考えられる。

周辺では中世の資料も多く存在し、埋蔵文化財のほかに寺社や石造物などが見られる。石造物は豊岡台地に多く分布しており、田原の五輪塔（市指定文化財）、舟底五輪塔（県指定文化財）など鎌倉期の五輪塔のほか、戦国期の板碑も見られる。当該地域の中世においては、寿永年間（1182～1184年）創建とされる龍源寺跡や田原熊野座神社などが中世肥後最大の在地領主・菊池氏の創建と伝わっており、当該地域を含む山本郡最大の荘園（山本荘）を菊池氏が荘官職として支配していたとみられる。少なくとも平安時代末期には菊池氏の勢力が伸長していたと考えられ、植木町内に菊池氏創建と伝わる寺社が多いこともこのことを反映していると思われる。中世後期においては、菊池氏に属し、菊池氏滅亡後も戦国期末まで山本郡最大の国人領主として続いた内古閑氏の支配下にあったとみられ、大平城跡・内古閑城跡・荒平城跡などが内古閑氏の居城と伝わる。以上、中世遺跡の多くは、菊池氏・内古閑氏との関連が想定し得る。

周辺の遺跡において最も大きな特徴は、西南戦争で主戦場となった豊岡台地上だけでない広い範囲で少量ながらも小銃弾等の西南戦争関連遺物が出土することである。銃砲弾は数百メートル以上飛ぶため、出土地を戦場跡と即時判断することはできないものの、戦場が一部飛火または拡大した可能性を示すものといえる。また、豊岡台地南側の大字轟の台地上には、七本官軍墓地・七本柿木台場薩軍墓地が存在している。

2 顕彰の歴史

西南戦争は戦後すぐに戦死者の顕彰が始まっている。明治11年（1878年）には官軍墓地が一斉に整備され、熊本市側は七本官軍墓地・明德官軍墓地・寄鶴官軍墓地が、玉東町側は高月官軍墓地・宇蘇浦官軍墓地が現在につながる姿となった。

明治13年（1880年）には、現在の田原坂公園内に崇烈碑が建立された。陸軍省本部が主体となり、西南戦争における田原坂の戦いの意義を高めて政府軍戦死者の顕彰を目的とし

た事業であった。材料には白く荘厳な印象を与える石灰岩が用いられ、篆額と撰文は征討軍総督有栖川宮熾仁親王によって行われた。

大正12年（1923年）4月には、古戦場跡が地元有志の手によって公園化され（大正12年4月9日九州日日新聞）、戦後80年にあたる昭和32年（1957年）には旧植木町が主体となって公園域を拡大、敷地内に両軍の戦死者の名前と出身地を刻んだ「西南役戦没者慰霊之碑」を建立した。

その後、平成25年（2013年）に国の史跡に指定される以前まで、公園敷地内での記念植樹や地元ゆかりの著名人の石碑等の建立が行われた。現在では、地元の小学生や顕彰会などの手により田原坂の戦いが終結した3月20日に合わせて公園内で戦没者慰霊祭が行われている。また、指定地以外の各地でも戦没者の慰霊や西南戦争の顕彰を目的とした祭祀や講演会などが有志の手によって催されており、本市内では熊本三州会による川尻の延寿寺と段山（だにやま）で行われる慰霊祭、熊本城顕彰会主催の西南の役記念講演会等が代表的である。

第4節 史跡周辺の文化財

1 周辺遺跡一覧 (※図表は仮置き)



周辺遺跡分布図

周辺遺跡一覧表

※番号は第1図に対応

番号	名称	主な時代	番号	名称	主な時代
1	鈴麦浦田遺跡	古代	42	田子山遺跡	縄文・平安
2	大平城跡	中世	43	迎畑遺跡	縄文・弥生・平安・中世
3	正院浦遺跡	平安	44	後野遺跡	縄文・平安・中世
4	内空閑城跡	中世	45	鞍掛山城跡	中世
5	平須恵器窯跡群	平安	46	南畑遺跡	縄文・平安・中世
6	鈴麦平畑遺跡	古代・中世	47	埋原畑遺跡	縄文・平安・中世
7	北楠原遺跡	平安	48	埋原城跡	中世
8	南楠原遺跡	平安	49	埋原1号洞穴	弥生～古代
9	荒平城跡	中世	50	埋原2号洞穴	弥生～古代
10	豊岡の眼鏡橋	江戸	51	那知1号洞穴	弥生～古代
11	谷の板碑	中世	52	埋原3号洞穴	弥生～古代
12	谷の眼鏡橋	昭和	53	那知2号洞穴	弥生～古代
13	田原坂	明治	54	那知3号洞穴	弥生～古代
14	岡林遺跡	縄文・中世	55	龍源寺跡	中世
15	田原城跡 田原寺跡	平安・中世	56	龍源寺跡板碑	中世
16	田原古墳	古墳	57	龍源寺跡十二仏龕佛	中世
17	田原の五輪塔附板碑	中世	58	生野原遺跡	縄文・平安・中世
18	宮ノ前遺跡	中世	59	轟芝原遺跡	縄文・弥生・平安
19	舟底の十一面観音立像	室町	60	五次郎丸遺跡	平安・中世
20	舟底五輪塔附板碑	鎌倉	61	轟辻畑遺跡	縄文・平安・中世
21	舟底遺跡	古代・中世	62	轟久保遺跡	縄文・弥生・平安・中世
22	田原坂公園板碑	室町	63	下道丸遺跡	縄文・中世
23	藤原遺跡	縄文・平安・中世	64	轟城跡	中世
24	富応廃寺	古代	65	轟横穴群	古墳
25	穴観音古墳	古墳	66	轟田中原遺跡	縄文・弥生・平安
26	丸塚古墳	古墳	67	塔ノ本遺跡	旧石器～弥生・奈良～中世
27	西山遺跡	縄文・平安・中世	68	乗尾遺跡	弥生
28	中久保遺跡	縄文・鎌倉・室町	69	大道端遺跡	縄文・弥生・平安・中世
29	立花木遺跡	縄文・平安・中世	70	轟今古閑遺跡	弥生・古墳・平安
30	七本薩軍墓地 熊本諸隊奮戦地碑	明治	71	轟遺跡	弥生・古墳・平安
31	鎌地遺跡	中世	72	尖り遺跡	縄文・弥生・奈良～近世
32	柳迫遺跡	縄文・中世	73	城之内古墳	古墳
33	多尾遺跡	縄文・平安・中世	74	滴水西原遺跡	縄文・弥生・古墳・平安
34	七本官軍墓地	明治	75	内山遺跡	縄文・弥生・平安・中世
35	富応田中原遺跡	旧石器・縄文	76	滴水館遺跡・滴水館跡	縄文～中世
36	外土井遺跡	縄文・平安	77	無名墳	古墳
37	富応久保遺跡	縄文・弥生・平安・中世	78	ヲスギ横穴群	古墳
38	富応芝原遺跡	平安	79	ヲスギ遺跡	縄文・弥生・平安・中世
39	原口遺跡	縄文・平安・中世	80	河原立遺跡	縄文・弥生・平安・中世
40	沖野遺跡	縄文・平安	81	滴水向原遺跡	縄文
41	後古閑立野遺跡	縄文・弥生・平安・中世	82	松村刀鍛冶跡	江戸
			83	平野西原遺跡	弥生・平安・中世

2 周辺の西南戦争関係資料一覧 (※図表は仮置き)



周辺の西南戦争関連資料

周辺の西南戦争関係資料一覧表

※番号は図に対応, 名称は通称

番号	名称	番号	名称
1	稲佐神社(薩摩軍砲台跡)	28	田原熊野座神社(宮ノ前戦跡, 社殿・鳥居・灯笼等に弾痕・銃砲弾)
2	乃木希典奮戦の地碑	29	谷村計介之碑・西南の役戦没者慰霊碑
3	宇蘇浦官軍墓地	30	弾痕の家(松本家土蔵)跡地
4	徳成寺(政府軍繻帯所)	31	田原坂公園北側(戦跡, 崇烈碑, 大クスに金属反応)
5	丸田公園(有栖川宮督戦の地碑)	32	田原坂公園南側(戦跡, 80周年慰霊碑)・田原坂西南戦争資料館
6	上木葉官軍本営跡	33	山縣有朋歌碑
7	正念寺(政府軍繻帯所, 山門・石段等に弾痕・小銃弾)	34	七本官軍墓地
8	高月官軍墓地	35	七本薩軍墓地・熊本諸隊奮戦地碑(薩摩軍七本柿木台場跡)
9	田原坂攻撃官軍第一線の地碑	36	河原立薩軍墓地
10	櫻田惣四郎(熊本隊参謀)辞世詩碑	37	薩軍病院跡
11	上白木弾痕の家跡(柱に砲弾痕, 現田原坂資料館展示)	38	熊本隊本営跡
12	薩軍三勇士の墓	39	薩軍本営跡
13	白山宮(灯笼に弾痕)	40	辺田野熊野座神社(乃木希典詩碑, 社殿に弾痕)
14	原倉西官軍砲台跡	41	乃木大将記念碑(伝千本桜)
15	立岩砲台跡	42	薩摩軍弾薬庫跡
16	篠原国幹戦没の地碑	43	植木学校跡(植木学校指導者が後に熊本協同隊を結成)
17	半高山公園(半高山戦跡)	44	仁連塔神社(社殿に弾痕・小銃弾)
18	吉次公園(吉次峠戦跡, 佐々友房の詩碑・谷村計介碑)	45	滴水官軍本営跡
19	二俣瓜生田官軍砲台跡	46	石塔台場跡(近くの墓地の墓石に弾痕)
20	官軍本営出張所跡(石積に弾痕)	47	荻迫柿木台場, 薩摩軍美少年の墓
21	二俣古閑官軍砲台跡	48	山頭遺跡第4次調査地(政府軍陣地跡)
22	薩軍兵站の地	49	山頭遺跡第5次調査地(薩摩軍陣地跡)
23	横平山公園(横平山戦跡)	50	荻迫観音(石祠に弾痕)
24	豊岡の眼鏡橋(政府軍攻撃基点)	51	荻迫神社(社殿に弾痕・小銃弾)
25	平原の民家跡(柱に小銃弾)	52	植木天満宮(向坂緒戦の地跡)
26	豊岡小学校跡地(北平古道戦跡)	53	河原林少尉戦死の地
27	田原の五輪塔(弾痕多数, 近くの墓地の墓石にも弾痕)	54	明徳官軍墓地(向坂官軍墓地)

第3章 史跡の概要

第1節 指定に至る経緯

熊本市の西南戦争遺跡は、明治10年(1877年)に起きた西南戦争で激戦地となった田原坂本道とその周辺で構成された史跡である。第1章第1節や第2章第3節に記載したように、本史跡の顕彰活動は西南戦争終結直後から現在に至るまでの長きにわたって、地域住民や遺族による戦没者の慰霊や周知啓発、旧植木町時代の公園整備など官民を越えた取り組みが続けられてきた。調査が始まる以前から史跡周辺では小銃弾や四斤砲弾の破片、金属製品等の西南戦争時の遺物が採取されており、遺跡の残存状態が良好であることが明らかであった。

このような中で、平成8年に文化庁から通知された「近代遺跡調査実施要項」、平成15年11月の文化庁記念物課長から植木町教育長あての「近代遺跡(軍事に関する遺跡)の詳細調査について」の依頼に基づく文化庁調査官の調査の実施、平成20年6月の文化庁調査官の現地視察等を経て、平成21年度から田原坂周辺の本格的な調査が実施された。

調査は主に発掘調査、金属探知機調査、文献調査、地元住民への聞き取り調査であり、それぞれの調査成果の概要は『熊本市の文化財第5集 田原坂』(熊本市教育委員会、2011年)、『熊本市の文化財第15集 田原坂Ⅱ』(熊本市教育委員会、2012年)にまとめ、平成25年12月に史跡指定へ向けて国への意見具申を行った。指定後も調査は継続し、その成果は『熊本市の文化財第30集 田原坂Ⅲ』(熊本市教育委員会、2013年)、『熊本市の文化財第39集 田原坂Ⅳ』(熊本市教育委員会、2014年)、『熊本市の文化財第48集 田原坂Ⅴ』(熊本市教育委員会、2015年)にまとめ、さらに総括報告書として『熊本市の文化財第127集 西南戦争遺跡—田原坂総括調査報告書』を令和6年度に刊行している。

第2節 調査研究の概要

1 概要

西南戦争遺跡は周辺がミカン畑として造成されているものの、景観は当時と大きな変化がなく田原坂本道も一部拡幅や法面保護がなされているが概ね「遺跡の保存状態が良好」である。しかし、「遺跡にかかわる建造物、遺構、敷地等が良好に保存されており、学術的価値が高いこと」という点では「田原坂の戦い」が従来伝聞や文字資料、地形や地勢のみに大きく頼っていて調査不足の部分があり、具体的かつ個別的な実態が不明で学術的価値付けに欠けるきらいがあった。そこで、まず周辺全域を踏査して遺構や遺物の分布状況を調査し、地域住民への聞き取りも実施して西南戦争遺跡詳細分布地図を作成した。その後、後世の開墾などの土地改変がない場所を選定して、金属探知機調査やトレンチ調査などを実施した。

遺構は主に西郷軍陣地の存在を示す塹壕跡や政府軍砲弾の着弾痕などであり、それらの位置を特定して規模や形態、構造、内容、対峙する方向、遺物の出土状況、小銃弾や砲弾がどの方向から撃ち込まれたものか等の情報を明らかにした。遺物は薬莖や雷管などその場所で銃を発砲したことが明確に推定できるもの、あるいは集中して出土した小銃弾などで

ある。小銃弾や砲弾片は戦場であることを示す重要な遺物で、付近に陣地があることが想定できるが、それらのみでは直接陣地の位置は示さないと考えられるため慎重に精査を行った。

2 発掘調査歴

(1) 第1次調査 平成21年度 調査主体：植木町教育委員会

田原坂を中心とする一帯の西南戦争遺跡の分布調査と聞き取り調査、および金属探知機調査と三の坂の発掘調査を実施した。結果、西南戦争遺跡の広がりや内容、小銃弾の集中箇所などが判明し、西郷軍陣地が推定できるようになった。本調査の成果は次年度に『熊本市の文化財第5集 田原坂』として刊行した。

(2) 第2次調査 平成22年度 調査主体：熊本市教育委員会（以下同じ）

田原坂公園を中心として発掘調査、金属探知機調査と自然科学土壌分析を実施した。発掘調査では西郷軍の塹壕跡を確認し、遺物も小銃弾、薬莢のほか軍服金ボタンなど多く出土した。田原坂の発掘調査によって塹壕が確認できたのは初例で、西郷軍が多種類の小銃を使用していたことが明らかになった。また、土壌分析では稲藁使用の痕跡が検出され、古写真に写る俵などを用いた築陣地の状況が推定できる結果が得られた。本調査の成果は『熊本市の文化財第15集 田原坂Ⅱ』として刊行した。

(3) 第3次調査 平成23年度

前年度に引き続いて田原坂公園と田原坂本道二の坂付近の発掘調査、金属探知機調査と自然科学による土壌分析を実施した。田原坂公園の発掘調査ではトレンチから松根が出土し、当時の地面と植生が判明した。また、明治13年の崇烈碑建設に伴う土取り場遺構が確認され、壁面には工具痕が残り、石灰岩破片も出土した。二の坂付近の調査は金属探知機調査のみであったが、調査地全体から小銃弾と薬莢を主とした西南戦争関連遺物が非常に多く採取された。薬莢集中箇所から政府軍陣地の場所が推定できるなど、当時の戦闘の様子を彷彿とさせる分布状況であり、後世にほとんど手が加えられていないと考えられる地形と相まって極めて良好に戦跡が残存していた。本調査の成果は『熊本市の文化財第30集 田原坂Ⅲ』として刊行した。

(4) 第4次調査 平成24年度

前年度から引き続いて田原坂公園と田原坂本道三の坂付近の発掘調査、金属探知機調査を実施した。三の坂調査地では平成21年度調査トレンチを再調査し、下部から中世に遡るとみられる古道を確認した。本調査の成果は『熊本市の文化財第39集 田原坂Ⅳ』として刊行した。

第3節 指定の状況

1 史跡名・所在地等

- (1) 史 跡 名 西南戦争遺跡
- (2) 所 在 地 熊本県熊本市北区植木町豊岡字栗ノ木平 1585 地先外 35 筆等
- (3) 指定年月日 平成 25 年 3 月 27 日
- (4) 面 積 27,586.00 m²
- (5) 告 示 番 号 平成 25 年 3 月 27 日付け文部科学省告示第 39 号

2 指定理由文とその範囲

西南戦争遺跡は、明治十年（一八七七）、鹿児島士族層を中心とする士族が政府に反旗を翻し、九州中南部一帯を舞台に行われた国内最大・最後の内戦にかかわる遺跡である。明治六年の征韓論の政変以後、一部士族が佐賀・熊本・秋月・萩で反乱を起こしたが、これらの反乱の最後として、明治十年二月、私学校生徒等が西郷隆盛を首領として蜂起し、熊本等の士族や徴募兵も呼応した。西郷軍は、熊本城の政府軍との攻防戦、田原坂の激戦で敗北し、大分・宮崎・鹿児島を敗走、九月二十四日に西郷が城山で自刃して収束した。明治政府が近代国家としての権力基盤を確立するなど、日本史上著名な戦争である。

このうち、豊前街道や三池往還・吉次往還が通る熊本県北部の熊本市植木・玉東町地域では、熊本城援軍のため南下する政府軍と、これを阻止しようとする西郷軍が、二月下旬から四月初めにかけて激突した。政府軍は木葉に本営を設置し、三月四日より、西郷軍が防塁等を築いて籠もる田原坂に進攻を開始した。政府軍は二度に及ぶ総攻撃をかけたが成果が上がらず、田原坂の西側の二俣台地に砲台を築き、側面から砲撃を加えて西郷軍に打撃を与え、三月二十日の総攻撃でようやく田原坂を陥落させた。この間、田原坂を見渡すことができ、二俣砲台等に近い横平山（標高一四四メートル）は、両軍による争奪の場となり、吉次往還では、三ノ岳と半高山に挟まれた吉次峠において両軍の激戦が行われた。田原坂陥落後も植木では市街戦が続いたが、ついに西郷軍は敗退、四月十四日には政府軍が熊本城に入城し、西郷軍は人吉に落ち延びた。戦時、政府軍は負傷者を収容し、治療する施設として正念寺等に大繙帯所を設置した。戦没した政府軍兵士等は周辺に仮埋葬され、その後高月や宇蘇浦等の官軍墓地に埋葬された。明治十三年には、陸軍省によって、現在の田原坂公園内に崇烈碑が建立された。

今回指定を行うのは、田原坂古戦場（熊本市域）、二俣砲台跡、横平山古戦場、半高山・吉次峠古戦場、正念寺、高月官軍墓地、宇蘇浦官軍墓地（以上、玉東町域）である。玉東町および植木町（現・熊本市）教育委員会では、平成二十一～二十四年度にかけて発掘調査、文献調査等を実施した。田原坂古戦場は、田原坂本道（延長約一一六〇メートル）を中心とする戦場跡である。田原坂入口の中谷川に架かる豊岡の眼鏡橋は、享和二年（一八〇二）築造の石製の単一アーチ橋である。坂は一ノ坂口で標高二五・九メートル、三ノ坂上で一〇六・九メートル、道幅四メートル程度であり、旧状をよく残し、道は幾度も屈曲し、昼なお暗く、

両壁が高い凹道が続く場所である。三ノ坂上は戦争当時、西郷軍が布陣した場所である。現在、田原坂公園として整備されているが、地形の改変を受けていない部分も多く、当時の陣地構築状況等を知る上で重要である。また、崇烈碑は石灰岩製で、台座を含めた総高は六メートルである。撰文・篆額は征討総督・有栖川宮熾仁親王で、碑文には戦争の経緯、田原坂激戦の様子が記されている。

二俣の瓜生田・古閑砲台跡は、田原坂と谷を挟んだ西側の台地上に所在する。金属探知機を用いた表面探査の結果、大砲を発射させる際に使用する摩擦管等が出土した。瓜生田砲台では、砲台跡の硬化面や大砲の轍と考えられる遺構、廃棄土坑等を検出した。横平山古戦場では、山の北側斜面一帯で銃弾や薬莢等が多数出土した。山頂の塹壕跡からは多数の薬莢が出土し、政府軍・西郷軍の戦闘の具体相が明らかとなった。半高山・吉次峠古戦場においても銃弾・薬莢・砲弾等の遺物を多数確認し、山頂部では戦闘に伴い築造された土抗状の掘り込み・盛土遺構を検出した。

正念寺は、承応三年（一六五四）創建とされる真宗寺院である。戦時、政府軍の大綱帯所として負傷者の治療が行われ、境内に戦死者の仮埋葬も行われた。本堂・庫裏等は建て替えられ旧状をとどめていないが、戦争当時の山門が三池往還に面して現存し、銃弾の痕跡も残る。戦争の傷跡をとどめる大綱帯所の遺構として貴重である。

高月官軍墓地は、正念寺の西側、三池往還沿いに立地し、九八〇柱を葬る墓地である。天草砂岩製の墓石に、植木・玉東町地域で戦死した兵士の階級、氏名、出身地、所属部隊、戦没地点を刻む。宇蘇浦官軍墓地は木葉山の中腹に位置し、三九九柱を葬る墓地である。基本的には高月墓地と同様であるが、安山岩製の墓石による警視局六四柱の戦死者も含む。

このように、西南戦争遺跡は、わが国最後の内乱として、明治政府が近代国家としての権力基盤を確立するなど、日本史上著名な戦争にかかわる遺跡である。発掘調査等によって、田原坂古戦場をはじめとする各遺構が良好に遺存することが確認された。近代の政治・軍事を知る上で重要である。よって、史跡に指定し保護を図ろうとするものである。

（『月刊 文化財』平成 25 年 2 月号（593 号）より抜粋）

3 指定地の現状

指定地は現在すべて市有地であり、田原坂本道は市道、田原坂公園は都市公園、豊岡の眼鏡橋は橋梁として熊本市が管理し、市民の利用に供している。

田原坂本道周辺の地形は当時から大きな改変は受けておらず、旧状を比較的に残している。道路の全長は約 1,160m、道幅約 4 m、標高は一ノ坂口 25.9m、三ノ坂上の崇烈碑付近 106.9m で比高差は 81m である。複数のカーブがあり、途中で両壁が高い凹道が続く昼間でも薄暗い場所がある。地理的環境によって歴史的環境が出現した特徴的な場所であり、地理と歴史が密接不可分の関係にあることを明確に示す場所である。

4 計画対象範囲の現状（※追加指定検討範囲を含む）

本計画では西南戦争遺跡指定地とその関連地を対象とする。指定地の現状については前項で記述しているため、本項では指定地以外の各対象地の現状について以下に示す。

○七本官軍墓地

七本官軍墓地は熊本市北区植木町轟字多尾 2105 に所在し、昭和 58 年（1983 年）1 月 18 日に熊本県の史跡に指定されている。敷地全体は国有地であり熊本市が無償貸し付けを受け都市公園として管理を行っている。明治 11 年（1878 年）8 月に建設されて以来、当時の姿をほぼ留めているが、砂岩製の墓石は全体的にひび割れや破損が目立ち、近年は平成 28 年熊本地震や悪質な倒壊行為によって大きな毀損を受けたものも多い。当該地には西南戦争で戦死した陸軍軍人 276 名、警視隊員 14 名、軍夫 10 名、計 300 名が埋葬されている。敷地面積は 1,383 m²で周囲を石積みで囲み、その上にさらに石柵がめぐらせてある。

川口武定著『従征日記 卷二』によれば「衆目ヲ愕シ、或ハ怯心ヲ生スルノ恐れ」から人目につきづらい場所に建設したと思われ、現在も七本官軍墓地の周辺は農地および竹林であり、主要道路からも離れている。

○明德官軍墓地

熊本市北区明德町 1277 番 4 に所在し、昭和 52 年（1977 年）10 月 11 日に熊本県の史跡に指定されている。七本官軍墓地と同様、敷地全体が国有地であり熊本市が無償貸し付けを受けて管理を行っている。明治 11 年（1878 年）に竣工したとされ、敷地は周囲の法面を含めて面積約 374 m²、周囲の民地・道路よりも約 1.0～1.4m 高く、北辺を正面とする。墓石は尉官墓 2 基、下士墓 17 基、兵卒墓 98 基、軍夫墓 5 基の合計 122 基が現存する。七本官軍墓地と同様、主要道路から離れたところに位置し、周辺は住宅地になっている。

○寄鶴官軍墓地

熊本市北区明德町 981 番に所在し、明德官軍墓地とともに昭和 52 年（1977 年）10 月 11 日に熊本県の史跡に指定されている。墓地は南面し、現状で標柱 1 基、墓石 1 基が敷地内に存在する。標柱は安山岩製、頭部角錐形の角柱で正面に「明治十年之役戦死者墳墓地」、背面に「明治廿三年三月建設 熊本縣」と刻されている。墓石も安山岩製で頭部角錐形の角柱、正面に「軍夫三十名之墓」、向かって右側面に「明治十年之役戦死」、向かって左側面に「大正十年再建 熊本縣」と刻されている。敷地全体は民有地であり、凝灰岩板石と安山岩縁石による敷石が施され、周囲はコンクリート柱 16 本とこれを繋ぐ鉄製鎖によって区画されている。七本官軍墓地、明德官軍墓地と同様に主要道路から離れたところに位置し、周辺は墓地および畑地になっている。

○田原熊野座神社

熊本市北区植木町豊岡 2177 番に所在する、未指定の関連地である。当該地は山鹿方面と

熊本方面を結ぶ脇往還に面し、南に進めば田原坂本道と合流する。記録類によれば「田原坂北之手松山台場」あるいは「小松山台場」などと呼ばれていたとされる。付近一帯は田原坂の戦いのはじめごろから「宮山争奪戦」の舞台となった。境内から多くの遺物（小銃弾、葉莢など）が見つかり、境内樹木には銃砲弾が刺さったまま内包され、石灯籠や本殿などにも西南戦争時の弾痕が残る。

○七本柿木台場薩軍墓地

熊本市北区植木町轟 2644 番に所在する、未指定の関連地である。戦後、周辺の側溝や畦畔に浅く埋められていた西郷軍本隊や熊本隊の兵士 300 名以上の遺体を西郷軍七本柿木台場跡にまとめて改葬したものである。その後、明治 16 年（1883 年）に七回忌を期した鹿児島県有志による改葬事業により多くの遺骨は回収されたものとみられ、現在は都市公園として整備・利用されている。

第4節 指定後の調査成果

西南戦争遺跡は指定後も継続して調査を行っている。調査の対象は主に指定地に関連する周辺地および遺跡であり、西南戦争遺跡の広がりを調査するものである。各調査の詳細は『熊本市の文化財第 127 集 西南戦争遺跡 田原坂総括調査報告書』に譲り、ここでは概要のみ記載する。

1 発掘調査等

平成 25 年度には、西南戦争遺跡の田原坂本道一の坂の南西に存在する岡林遺跡で発掘調査を行った。調査では合計 29 本の試掘坑を設定したが遺構は確認されず、遺物も極めて少量であり、調査地全体がミカン畑造成により大きく削平、攪乱を受けている状況が確認された。未指定の関連地である熊野座神社では、敷地の境界確認を行い調査地の地形測量図を作成した。県指定史跡の七本官軍墓地では、地形測量図作製および詳細平面図の作製を行った。また、指定地内に所在する崇烈碑の測量図作製を行った。

平成 26 年度には、田原熊野座神社で金属探知機調査と遺物取り上げ、境内樹木の調査、再建社殿の弾痕調査を行った。田原坂本道三の坂に接続する北平古道の調査では、現況測量調査、金属探知機調査、トレンチ調査を実施した。調査の結果、遺物が多数出土し本調査地が西南戦争における重要な場所であったことが位置づけられた。七本官軍墓地では各墓石の計測と記銘調査を行った。

平成 27 年度には、みかん小屋周辺調査地において金属探知機調査と遺物取り上げを行った。田原熊野座神社では、境内樹木の調査を実施し樹木に突き刺さった銃砲弾の検出を行った。熊本市有地（北）および熊本市有地（南）の調査および田原城跡・田原寺跡調査では、金属探知機調査および遺物取り上げを行った。

平成 28 年度には、田原城跡・田原寺跡調査では金属探知機調査、遺物取り上げ、トレン

チ調査、および周辺の墓石調査を行った。七本官軍墓地および明德官軍墓地では熊本地震の被害状況確認と応急復旧を行った。

平成 29 年度には、明德官軍墓地で墓石記銘調査を行った。北平古道調査で金属探査、遺物取り上げ、トレンチ調査を行った。

2 文献調査

平成 21 年度から継続して文献調査を実施している。「田原坂の戦い」の状況については様々な文献に記載があり、17 日間にわたる激戦の様子が描かれている。ここでは文献より得た「田原坂の戦い」の概要と推定戦闘地及び調査地についての一覧を『熊本市の文化財 第 127 集 西南戦争遺跡 田原坂総括調査報告書』より転載する。

※別添表

第 25 表 調査地周辺における両軍の戦闘状況の推定

調査地 北平古道、田原城跡・田原寺跡、熊野座神社 ⇒ 豊岡台地北部一帯

・小字名 北平、上ノ原、谷、栗ノ木平、田原、宮ノ前、宮ノ原など

調査地 みかん小屋周辺、本道二ノ坂、谷村計介碑、熊本市有地（北）、（南） ⇒ 田原坂本道北側一帯

・小字名 岡林、栗ノ木平、宮ノ原、宮ノ前など

調査地 田原坂公園北半部、田原坂公園南半部、資料館下、舟底遺跡 ⇒ 豊岡台地中央部一帯

・小字名 宮ノ原、水本、舟底、休居、宿、古閑山、中久保、供田、松山など

聞き取り調査のみ ⇒ 豊岡台地南部一帯

・小字名 赤尾、立花木、轟、七本など

3月4日

政府軍		推定戦闘地及び調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
豊岡村 左側を進む	近歩1連1大1中左小隊	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社	薩4大7小 ⁽⁴⁾	田原坂上の小学校後ろ 松山
田原坂 坂左側から邊場山(平原山) ⁽¹⁾ 下を通って豊岡村へ向かう	近歩1連1大3中		薩5大8小 ⁽⁵⁾ 薩6大1小 薩6大3小 薩6大4小	熊野座神社、宮山 豊岡本村背後の山中 豊岡本村背後の山中 豊岡本村背後の山中
田原坂本道 左方の山谷から進入 田原坂本道 左方に向かう	熊鎮14連2大2中左小隊 熊鎮14連2大4中			
田原坂本道 豊岡村に向かい山上の薩壘に 迫る	熊鎮14連2大4中左小隊			
田原坂 坂道を進む 二俣より田原坂へ偵察 のち接戦	近歩1連1大2中 熊鎮14連2大3中の一部	田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)	薩4大7小 薩5大1小 薩5大5小	田原本道右翼 田原本道右翼 田原本道右翼
田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 正面、坂上に迫る	熊鎮14連3大3中 熊鎮14連3大4中 熊鎮14連3大4中1半隊			
田原坂 右側に迂回し豊岡村に至る	近歩1連1大4中	豊岡台地北部一帯		
田原坂 坂傍から横撃、1壘を奪う	近歩1連1大4中右小隊	田原坂本道北側 一帯		
田原坂本道 坂上右方の薩壘を攻撃	熊鎮14連3大1中	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩1大8小 薩4大7小 薩5大5小 薩5大8小	田原
田原坂本道 坂上右方高地より進入	熊鎮14連3大2中		薩6大2小 薩6大4小 ⁽⁶⁾ 薩6大6小 ⁽⁶⁾ 薩6大7小 ⁽⁶⁾	
二俣長窪間 谷を挟んで村端で対戦	近歩1連2大2中 ⁽²⁾			

田原坂半腹 敵前 250 m 二俣村	東鎮豫砲 1 大右分隊 (3)	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯	薩砲兵 1 個半隊 (7)	田原坂守備
			薩 1 大 7 小 薩 2 大 9 小 薩 5 大 9 小 薩 6 大 5 小	田原坂左翼 (七本、轟方面)
		豊岡台地南部一帯	薩 1 大 6 小 薩 6 大 2 小 薩 7 大 11 小 佐土原 1 小 佐土原 2 小 熊本 3 小 (8) 熊本 7 小 (8) 熊本 9 小 (8)	七本 七本のち吉次
			薩 4 大 6 小 (9)	轟村

3 月 5 日

政府軍		推定戦闘地及び調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
豊岡村 田原の左より進撃 豊岡村 進入 薩軍左翼の嶮より攻撃	熊鎮 14 連 2 大 4 中 近歩 1 連 1 大 1 中右半隊 (10)	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社	薩 5 大 8 小 (12) 薩 5 大 5 小	田原坂北之手松山台場 田原本道右翼
田原坂 田原坂	熊鎮 14 連 3 大 4 中 熊鎮 14 連 3 大 2 中右小隊	田原坂本道北側一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地 (北) 市有地 (南)	薩 5 大 5 小左半隊 薩 5 大 8 小 (12)	田原本道 田原本道
長窪山麓 長窪山 右方の一高阜	近歩 1 連 1 大 2 中 近歩 1 連 1 大 4 中	豊岡台地中央部一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩 1 大 8 小 薩 4 大 7 小 薩 6 大 4 小 薩 6 大 6 小 薩 6 大 7 小 薩 1 大 6 小 (13) 薩 4 大 5 小	田原 長窪山麓、右方の一高阜 長窪山
二俣	中央分隊 (東鎮豫砲 1 大) (11)	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
		豊岡台地南部一帯	薩 6 大 2 小 薩 7 大 11 小 佐土原 1 小	七本

			佐土原 2 小	
			薩 4 大 6 小	轟村

3 月 6 日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部 隊		部 隊	戦闘地等
田原口 坂左の谷より進軍、 薩壘 3ヶ所を抜き追撃、一の宮 社に放火し進む 田原坂左翼 田原坂左翼	近歩 1 連 1 大 1 中 ⁽¹⁴⁾ 大鎮 9 連 2 大 3 中 熊鎮 14 連 3 大 1 中 1 分隊	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社	薩 5 大 8 小 ⁽¹⁸⁾	田原坂北之手松山台場
田原口 坂右に出る 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂 田原坂 田原坂	近歩 1 連 1 大 3 中 大鎮 9 連 1 大 1 中 大鎮 9 連 1 大 4 中 大鎮 9 連 2 大 1 中 熊鎮 14 連 2 大 2 中 左小隊 選抜銃卒 (14 連 2 大 各中隊) 熊鎮 14 連 3 大 各中隊	田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地 (北) 市有地 (南)		
二俣口 長窪山薩壘に迫る (倉の台場…田原坂口横面) 二俣口 舟底山 田原坂右翼 田原坂右翼 田原坂右翼	近歩 1 連 1 大 4 中 ⁽¹⁵⁾ 選抜隊 大鎮 8 連 2 大 1 中 大鎮 8 連 2 大 4 中 大鎮 9 連 2 大 2 中	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩 1 大 8 小 薩 4 大 7 小 薩 5 大 5 小 薩 5 大 8 小 薩 6 大 4 小 薩 6 大 6 小 薩 6 大 7 小 薩 7 大 11 小 ⁽¹⁹⁾	田原
七本村、轟村 田原坂本道に近づく	近歩 2 連 1 大 1 中 ⁽¹⁶⁾	豊岡台地中央部 一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣村	砲兵右分隊 (東鎮豫砲 1 大) ⁽¹⁷⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側 一帯 豊岡台地中央部 一帯 豊岡台地南部一帯		
		豊岡台地南部一帯	薩 1 大 6 小 薩 6 大 2 小 薩 7 大 11 小 佐土原 1 小 佐土原 2 小 薩 4 大 6 小	七本 轟村

3月7日

政府軍		推定戦闘地及び調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 左側山上の薩軍に迫る 田原坂本道 鉢割坂及びその右に進む 田原坂本道 北山から豊岡村に深入 小畑村に向かう 小畑村に向かう 小畑村に向かう	大鎮9連2大1中 大鎮9連2大2中 大鎮9連2大3中 近歩1連1大3中 広鎮11連1大3中 広鎮11連1大4中	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社	薩5大8小 ⁽²³⁾	熊野座神社(宮山)、 小松山台場(北手松山 台場)
田原坂本道 田原坂本道 林叢間潜進、路左右に進む 田原坂 坂上劇戦に応援 田原坂	近歩1連1大1中 別働狙撃2小、3小 熊鎮14連3大4中 熊鎮14連3大1中	田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)	薩2大7小 薩4大7小 薩5大8小 ⁽²³⁾ 薩7大11小	田原本道 田原本道 田原本道 田原本道
田原坂本道正面 薩の左側を横撃 田原坂本道正面 近歩2連1大1中の左翼 田原坂本道正面 薩の左側を横撃 田原坂本道正面 近歩2連1大1中の援兵	近歩2連1大1中 ⁽²⁰⁾ 近歩2連1大3中 ⁽²⁰⁾ 別働狙撃1小 近歩1連1大4中	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩5大5小 薩6大4小 薩6大6小 薩6大7小	田原
二俣口 中久保 二俣口 右は長窪山の薩軍 二俣口前面 右は長窪山の薩軍 二俣口前面 右は長窪山の薩軍	近歩1連1大1中 ⁽²¹⁾ 近歩1連2大2中 大鎮9連1大3中 大鎮9連1大4中			
田原口本道 二俣村	砲兵隊 (東鎮豫砲1大右、 中央分隊) ⁽²²⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側 一帯 豊岡台地中央部 一帯 豊岡台地南部一帯		
田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵 田原坂右翼 攻撃兵	近歩1連2大1中 近歩1連2大4中 東鎮1連2大1中 東鎮1連2大3中 東鎮3連2大2中 東鎮3連2大4中半隊	豊岡台地南部一帯	薩6大2小 薩7大3小 ⁽²⁴⁾ 薩7大10小 ⁽²⁴⁾ 佐土原1小 佐土原2小 熊本3小 熊本7小 熊本10小 薩1大6小 薩4大6小	七本 轟村

田原坂右翼 応援兵	熊鎮 14連 2大 2中		
田原坂右翼 応援兵	熊鎮 14連 2大 4中 1小		
田原坂右翼 応援兵	熊鎮 14連 3大 2中		
田原坂右翼 応援兵	熊鎮 14連 3大 4中 1小		

3月9日

政府軍		推定戦闘地及び調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
		豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡	薩 2大 6小 薩 6大 4小 薩 6大 6小	豊岡村守備 豊岡村守備のち春日村 豊岡村守備のち春日村
田原口より田原坂進撃 田原口より田原坂進撃 二俣口より田原坂へ進む 二俣口より田原坂へ進む 二俣口より田原坂攻撃 二俣口より田原坂攻撃 二俣口より田原坂攻撃 二俣口より田原坂攻撃 田原坂攻撃 田原坂攻撃 田原坂攻撃 田原坂攻撃 田原坂 近衛の戦線に加わる 田原坂	近歩 1連 1大 1中 ⁽³⁰⁾ 近歩 1連 1大 3中 ⁽³⁰⁾ 近歩 1連 1大 2中 ⁽³⁰⁾ 近歩 1連 1大 4中 ⁽³⁰⁾ 東鎮 1連 2大 1中 東鎮 1連 2大 4中 東鎮 3連 1大 2中 東鎮 3連 1大 3中 近歩 2連 1大 1中 近歩 2連 2大 2中 近歩 2連 2大 4中 東鎮 1連 1大の2個中隊 熊鎮 14連 2大 3中 ⁽³¹⁾ (大鎮) 工兵 2大 1分隊 ⁽³²⁾	田原坂本道北側一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南) 豊岡台地中央部一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩 2大 1小 薩 2大 2小 薩 4大 7小 薩 5大 5小 薩 6大 7小 薩 7大 3小 薩 7大 10小	田原
二俣	砲兵 1分隊 (東鎮豫砲 1大) ⁽³³⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣口 二俣口 轟の薩軍を攻撃 轟の薩軍を攻撃 轟の薩軍を攻撃	東鎮 1連 2大 3中 東鎮 3連 1大 4中 近歩 1連 2大 1中 ⁽³⁴⁾ 大鎮 9連 1大 1中 ⁽³⁴⁾ 大鎮 9連 1大 2中 ⁽³⁴⁾	豊岡台地南部一帯	薩 6大 2小 薩 7大 11小 佐土原 1小 佐土原 2小 熊本 3小 熊本 7小 ⁽³⁵⁾ 薩 1大 6小 薩 2大 1小半隊 薩 2大 2小半隊 薩 4大 6小	七本 轟村

3月10日

政府軍		推定戦闘地及び調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道	近歩 1連 1大 1中 近歩 1連 1大 3中	田原坂本道北側一帯		

		調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)		
長窪村中央 長窪山 田原左側	近歩1連2大2中 ⁽³⁶⁾ 広鎮11連2大3中	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小	田原
二俣	東鎮豫砲兵1大 (2小隊左分隊加わる) ⁽³⁷⁾	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側 一帯 豊岡台地中央部 一帯 豊岡台地南部一帯		
立野山(立花木) 二俣前面田原右側 田原右翼	近歩1連1大4中 近歩1連2大1中	豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩6大2小 薩7大11小 佐土原1小 佐土原2小 熊本3小 薩4大6小	七本 轟村

3月11日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道	近歩1連1大1中 ⁽³⁸⁾ 近歩1連1大3中 ⁽³⁸⁾ 近歩2連1大の1個中隊 近歩2連の1個中隊 東鎮1連の2個中隊 広鎮11連3大4中 広鎮11連2大4中	田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)		
二俣口前面 田原中央 二俣口前面 田原中央 二俣口前面 田原中央 長窪山	近歩1連1大2中 近歩1連2大1中 大鎮9連1大2中 近歩1連2大2中	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大10小	田原

田原坂 二俣 舟底村薩壘攻撃 二俣	(大鎮)砲兵4大2小右分隊1分隊 ⁽³⁹⁾ (大鎮)砲兵4大2小1分隊 ⁽³⁹⁾ 砲兵(東鎮豫砲1大) ⁽⁴⁰⁾	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
立野山(立花木) 立野山(立花木) 立野山(立花木) 二俣口 二俣口 二俣口前面 七本ノ原台場 二俣口前面 右翼中央 二俣口 田原坂進撃 二俣右側横平山守線を出、 前面薩壘攻撃	近歩1連1大4中 選抜狙撃隊 広鎮11連2大3中 東鎮1連3大1中 東鎮1連3大2中 近歩1連2大3中 ⁽⁴¹⁾ 広鎮11連3大3中 熊鎮14連2大2中 ⁽⁴²⁾ 近歩1連2大4中	豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩3大4小 薩3大7小分隊 薩5大3小 薩5大4小 薩6大2小 薩7大3小 薩7大9小 薩7大11小 佐土原1小 佐土原2小 熊本3小 熊本7小 薩4大6小	七本 轟村から七本応援

3月12日

政府軍		推定戦闘地及び調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道	近歩1連1大1中 ⁽⁴³⁾ 近歩1連1大3中 ⁽⁴³⁾	田原坂本道北側一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)		
二俣の前面左翼 二俣の前面左翼	広鎮11連2大3中 東鎮1連1大1中	豊岡台地中央部一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大4小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小	田原
田原坂本道 二俣 二俣	砲兵4大2小の半分 砲兵4大2小の半分 東鎮予砲兵1大	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡		

		熊野座神社 田原坂本道北側 一帯 豊岡台地中央部 一帯 豊岡台地南部一帯		
立野山(立花木) 立野山(立花木) 橘木(立花木) 七本ノ原台場 二俣口前面 二俣口右翼	近歩1連1大4中 近歩1連2大3中2分隊 熊鎮14連3大3中 ⁽⁴⁴⁾ 近歩1連2大3中半隊 ⁽⁴⁵⁾ 近歩1連1大2中 工兵全隊	豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩6大2小 薩7大11小 佐土原1小 佐土原2小 熊本3小 熊本7小 ⁽⁴⁶⁾ 薩4大6小 ⁽⁴⁷⁾	七本 轟村

3月13日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道 田原坂口	近歩1連1大1中 近歩1連1大3中 (大鎮)工兵2大1小 4分隊 ⁽⁴⁸⁾	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)	薩5大5小 薩2大2小左半隊 ⁽⁵²⁾	田原本道右翼 田原坂本道
橘木より田原坂に進む	熊鎮14連3大3中 ⁽⁴⁹⁾	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小 貴島2小 熊本1小	田原
田原坂本道 二俣村前面 二俣	砲兵4大2小の1分隊 砲兵4大2小の1分隊 東鎮豫砲兵1大 ⁽⁵⁰⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側 一帯 豊岡台地中央部 一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣口前面 二俣口前面 七本ノ原台場	近歩1連1大2中 広鎮11連2大3中 近歩1連2大3中 ⁽⁵¹⁾	豊岡台地南部一 帯	薩1大6小 薩2大2小半隊 薩6大2小	七本

			薩 5 大 4 小 薩 7 大 11 小 佐土原 1 小 佐土原 2 小 貴島 1 小 高鍋 1 小 高鍋 2 小 熊本 3 小	
			薩 3 大 4 小	轟村

3月14日

政府軍		推定戦闘地及び調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 田原坂本道 田原坂台場	近歩 1 連 1 大 1 中 ⁽⁵³⁾ 近歩 1 連 1 大 4 中 ⁽⁵⁴⁾	田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)	薩 5 大 5 小左半隊	田原本道応援から、田原坂上へ進む
二俣より田原坂に進む 長窪村中央 長窪村前面 舟底村山腹の壘 守線	熊鎮 14 連 3 大 2 中 近歩 1 連 2 大 2 中 ⁽⁵⁵⁾ 近歩 1 連 2 大 3 中 大鎮 8 連 3 大 1 中	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩 2 大 1 小 薩 2 大 2 小 薩 2 大 6 小 薩 4 大 7 小 薩 5 大 5 小 薩 6 大 6 小 薩 6 大 7 小 薩 7 大 3 小 薩 7 大 10 小	田原
二俣村 二俣村	砲兵 4 大 2 小 東鎮予砲兵 1 大	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側 一帯 豊岡台地中央部 一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣口 二俣長窪間の水車場近傍より、 1 小隊轟村に対する山腹に 散兵、1 小隊は山麓 七本口 本道を横断 七本口 本道を横断 七本口 本道を横断 二俣口 薩壘中央 二俣口正面 二俣口右翼の薩壘にせまる 二俣口 右側に出る 二俣口	近歩 1 連 1 大 2 中 ⁽⁵⁶⁾ 近歩 1 連 2 大 2 中 ⁽⁵⁵⁾ 大鎮 8 連 3 大 2 中 ⁽⁵⁷⁾ 大鎮 8 連 3 大 4 中 ⁽⁵⁷⁾ 熊鎮 14 連 2 大 4 中 ⁽⁵⁸⁾ 警視抜刀隊 東鎮 1 連 1 中 東鎮 1 連 2 中 広鎮 11 連 2 大 3 中の 1 半隊 熊鎮 14 連 3 大 1 中	豊岡台地南部一帯	薩 1 大 6 小 薩 1 大 7 小 薩 2 大 2 小 ⁽⁵⁹⁾ 薩 5 大 4 小 薩 6 大 2 小 薩 7 大 4 小 薩 7 大 9 小 ⁽⁵⁹⁾ 薩 7 大 10 小 薩 7 大 11 小 佐土原 1 小 佐土原 2 小 貴島 1 小	七本 七本柿木台場

二俣口	工兵隊		貴島 2 小 ⁽⁵⁹⁾	
			貴島 3 小 ⁽⁵⁹⁾	
			貴島 4 小 ⁽⁵⁹⁾	
			貴島 5 小 ⁽⁵⁹⁾	
			貴島付属砲隊 ⁽⁵⁹⁾	
			高鍋隊 1 小	
			高鍋隊 2 小	
			熊本 1 小半隊 ⁽⁶⁰⁾	
			熊本 3 小	
			熊本 7 小 ⁽⁶⁰⁾	
			熊本 9 小半隊 ⁽⁶⁰⁾	
			熊本 10 小 ⁽⁶⁰⁾	
			熊本 11 小 ⁽⁶⁰⁾	
			薩 3 大 4 小	轟村

3 月 15 日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
内北川より進み、宮ノ前で 激戦 ⁽⁶¹⁾		豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社		抜刀にて宮ノ原より押寄 せ戦闘 ⁽⁶¹⁾
田原坂本道 田原坂本道	近歩 1 連 1 大 1 中 ⁽⁶²⁾ 近歩 1 連 1 大 4 中 ⁽⁶³⁾	田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)		
二俣前面 長窪村中央 長窪村前面 田原阜	近歩 1 連 2 大 2 中 ⁽⁶⁴⁾ 近歩 1 連 2 大 3 中 ⁽⁶⁵⁾	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩 2 大 1 小 薩 2 大 2 小 薩 2 大 6 小 薩 4 大 6 小 ⁽⁶⁸⁾ 薩 4 大 7 小 薩 5 大 5 小 薩 6 大 6 小 薩 6 大 7 小 貴島 2 小	田原
田原坂本道 二俣村 二俣村	砲 4 大 2 小隊の 1 分隊 砲 4 大 2 小 東鎮予砲 1 大 ⁽⁶⁶⁾	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側 一帯 豊岡台地中央部 一帯 豊岡台地南部一帯		

二俣口 二俣 七本口	近歩1連1大2中 ⁽⁶⁷⁾ 熊鎮14連2大4中	豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩2大2小 ⁽⁶⁸⁾ 薩5大4小 薩6大2小 薩7大3小 ⁽⁶⁸⁾ 薩7大4小 ⁽⁶⁸⁾ 薩7大9小 ⁽⁶⁸⁾ 薩7大10小 ⁽⁶⁸⁾ 薩7大11小 貴島1小 貴島2小 ⁽⁶⁸⁾ 貴島3小 ⁽⁶⁸⁾ 貴島4小 ⁽⁶⁸⁾ 貴島5小 ⁽⁶⁸⁾ 貴島付属砲隊 ⁽⁶⁸⁾ 佐土原1小 佐土原2小 高鍋1小 高鍋2小 熊本1小半隊 ⁽⁶⁸⁾ 熊本3小 熊本9小半隊 ⁽⁶⁸⁾ 熊本10小 ⁽⁶⁸⁾ 熊本11小 ⁽⁶⁸⁾	七本 七本柿木台場
			薩3大4小	轟村

3月16日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
谷より進み、栗ノ木平に 進撃 ⁽⁶⁹⁾		豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社		宮ノ原より押し下し下射 ⁽⁶⁹⁾
田原坂本道第一線 田原坂本道第一線 田原坂本道第一線	近歩1連1大1中 近歩1連1大3中 近歩1連1大4中	田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)		
舟底村山腹 田原	大鎮8連3大1中 熊鎮14連3大3中 ⁽⁷⁰⁾	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小	田原

			薩 6 大 7 小 貴島 2 小	
田原口 二俣口	第 1、2 旅団砲隊 (東豫砲 1 大、砲兵 4 大 2 小)	豊岡台地北部一帯 田原坂本道北側一帯 豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯		
二俣口前面左側第一線 二俣口前面中央の第一線 二俣口前面中央の第一線 二俣口前面長窪村中間第一線 二俣口前面右翼 田原阜 二俣口前面右翼 田原阜 二俣口前面右翼 田原阜 二俣口前面右翼 二俣口前面右翼 七本口	大鎮 10 連 2 大 1 中 近歩 1 連 1 大 2 中 近歩 1 連 2 大 1 中 近歩 1 連 2 大 3 中 大鎮 8 連 3 大 2 中 大鎮 8 連 3 大 4 中 広鎮 11 連 2 大 2 中 広鎮 11 連 2 大 3 中 大鎮 8 連 3 大 3 中 熊鎮 14 連 2 大 4 中	豊岡台地中央部一帯 豊岡台地南部一帯	薩 1 大 6 小 薩 1 大 8 小右半隊 薩 5 大 4 小 薩 6 大 2 小 薩 7 大 3 小 ⁽⁷¹⁾ 薩 7 大 10 小 ⁽⁷¹⁾ 薩 7 大 11 小 貴島 1 小 佐土原 1 小 佐土原 2 小 高鍋 1 小 高鍋 2 小 熊本 1 小右半隊 ⁽⁷²⁾ 熊本 3 小 熊本 7 小 薩 3 大 4 小	七本 轟村

3 月 17 日

政府軍		推定戦闘地及び調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
田原坂本道 内 2 個中隊を前面に増加し、左に方向を転じ田原坂の背面を襲う	近歩 1 連 2 大 4 中 近歩 1 連 1 大 3 中 (援隊) 大鎮 8 連 3 大 3 中	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地 (北) 市有地 (南)		
田原坂本道正面 山上に達し、塁で防戦 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道	近歩 1 連 1 大 1 中 ⁽⁷³⁾ 近歩 1 連 1 大 3 中 警視抜刀隊 (川畑隊) 東鎮 3 連 3 大 1 中 熊鎮 14 連 3 大 1 中 熊鎮 14 連 3 大 4 中 近歩 1 連 1 大 4 中 ⁽⁷⁴⁾	田原坂本道北側一帯	薩 2 大 1 小 ⁽⁷⁶⁾ 薩 4 大 7 小 ⁽⁷⁶⁾	田原坂北手ノ松山 田原坂北手ノ松山

二俣口前面中央 守兵	近歩1連2大3中 ⁽⁸⁴⁾		
二俣口前面中央 守兵	大鎮8連3大2中		
二俣口前面中央 守兵	大鎮9連1大1中		
二俣口前面中央 守兵	大鎮9連3大2中		
二俣口前面 守兵	近歩1連1大2中		
二俣口前面 守兵	近歩1連2大1中		
二俣口前面 守兵	近歩1連2大4中		
二俣口前面 守兵	東鎮1連1大1中		
二俣口前面 守兵	東鎮1連1大2中		
二俣口前面 守兵	大鎮8連3大4中		
二俣口前面 守兵	大鎮9連2大2中		
二俣口前面 守兵	大鎮10連2大1中		
二俣口前面 守兵	広鎮11連2大3中		
二俣口前面 守兵	広鎮11連3大3中		

3月19日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
水本、谷、岡林、北平等 にて数十度の戦争 ⁽⁷⁹⁾		豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社		水本、谷、岡林、北平 等にて数十度の戦争 ⁽⁷⁹⁾
田原坂本道	近歩1連1大4中	田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)		
舟底村	近歩1連1大1中	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩2大1小 薩2大2小 薩2大6小 薩4大7小 薩5大5小 薩6大6小 薩6大7小 薩7大3小 薩7大10小 貴島2小	田原
		豊岡台地南部一帯	薩1大6小 薩5大4小 薩6大2小 薩7大11小 貴島1小 佐土原1小 佐土原2小	七本

		高鍋 1 小 高鍋 2 小	
		薩 3 大 4 小	轟村

3 月 20 日

政府軍		推定戦闘地及び 調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部 隊		部 隊	戦闘地等
田原坂口 田原坂口 田原坂口 田原坂口	近歩 1 連 1 大 3 中 広鎮 11 連 2 大 4 中 広鎮 11 連 3 大 1 中 広鎮 11 連 3 大 4 中	田原坂本道北側 一帯 調査地 みかん小屋周辺 本道二ノ坂 谷村計介碑 市有地(北) 市有地(南)	薩 1 大 8 小 右半隊 薩 2 大 1 小 薩 4 大 7 小 薩 5 大 1 小 薩 5 大 5 小 薩 6 大 2 小 薩 7 大 6 小	田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道 田原坂本道
舟底村から植木街道(本道)、 のち豊岡村駐屯	近歩 1 連 1 大 1 中 ⁽⁸⁷⁾	豊岡台地中央部 一帯 調査地 公園北半部 公園南半部 資料館下 舟底遺跡	薩 2 大 2 小 薩 2 大 6 小 薩 6 大 6 小 薩 6 大 7 小 薩 7 大 3 小 薩 7 大 10 小 貴島 2 小	田原
二俣 二俣、田原坂	東鎮豫砲 1 大 ⁽⁸⁸⁾ 砲兵 4 大 2 小 ⁽⁸⁹⁾	豊岡台地北部一帯 調査地 北平古道 田原城跡・寺跡 熊野座神社 田原坂本道北側 一帯 豊岡台地中央部 一帯 豊岡台地南部一帯		
前軍 先鋒 前軍 先鋒 前軍 先鋒 前軍 先鋒 前軍 先鋒 前軍 先鋒 前軍 先鋒 田原中央 援隊 左翼 左翼に付属 前軍 右翼 植木、向坂へ 七本/原台場、のち向坂へ 中軍 援隊 中軍 援隊 中軍 援隊 中軍 援隊 中軍 援隊 中軍 援隊	近歩 1 連 2 大 3 中 近歩 2 連 2 大 2 中 近歩 2 連 2 大 4 中 東鎮 3 連 3 大 2 中 大鎮 9 連 2 大 4 中 熊鎮 14 連 3 大 1 中 警視抜刀隊 1 小隊 (川畑) 熊鎮 14 連 2 大 4 中 熊鎮 14 連の 1 個中隊 大鎮工兵 2 大 ⁽⁹⁰⁾ 近歩 1 連 1 大 2 中 ⁽⁹¹⁾ 近歩 1 連 2 大 3 中 ⁽⁹²⁾ 東鎮 1 連 1 大 3 中 東鎮 1 連 1 大 4 中 東鎮 1 連 3 大 2 中 大鎮 8 連 3 大 1 中 大鎮 8 連 3 大 3 中 大鎮 10 連 2 大 4 中	豊岡台地南部一帯	薩 1 大 6 小 薩 5 大 4 小 薩 7 大 11 小 貴島 1 小 佐土原 1 小 佐土原 2 小 高鍋 1 小 高鍋 2 小 薩 3 大 4 小	七本 轟村

政府軍		推定戦闘地及び調査地	薩摩軍	
戦闘地等	部隊		部隊	戦闘地等
中軍 援隊	警視拔刀隊 1 小隊 (上田)			
中軍、のち植木へ	近歩 1 連 1 大 4 中 ⁽⁹³⁾			
後軍 予備	近歩 1 連 1 大 4 中			
後軍 予備	近歩 1 連 2 大 1 中			
後軍 予備	近歩 1 連 2 大 2 中			
後軍 予備	近歩 1 連 2 大 4 中			
後軍 予備	大鎮 8 連 2 大 3 中			
後軍 予備	大鎮 9 連 1 大 2 中			
後軍 予備	大鎮 10 連 2 大 1 中			
後軍 予備	熊鎮 14 連 3 大 3 中			
第 3 旅団の援軍	熊鎮 14 連 1 大の右半大隊			

註

- (1) 陸上自衛隊北熊本修親会『新編西南戦史』1979年、220頁
- (2) アジア歴史資料センター、Ref. C09083506100「戦闘景況 近衛歩兵第一聯隊第貳大隊第貳中隊」
- (3) アジア歴史資料センター、Ref. C09083513300「第一號戦闘略記 第一旅團東京鎮臺豫砲兵第一大隊」
- (4)、(5)、(6)、(7)、(9)、(12)、(18)、(19)、(23)、(24)、(29)、(47)、(59)、(68)、(71)、(76)、(77)、(85) 鈴木徳臣「田原坂三ノ坂における薩軍の配備状況」『熊本市の文化財第30集 田原坂Ⅲ』熊本市教育委員会2013年、21～24頁、27頁
- (8)、(35)、(46)、(60)、(72)、(78)、(86) 宇野東風『硝煙弾雨 丁丑感舊録』丁丑感舊會、1928年、42～45頁、49～50頁、53頁
- (10)、(20)、(53)、(62)、(73)、(81)、(87) アジア歴史資料センター、Ref. C09083957400「近衛歩兵第一聯隊第一大隊第一中隊戦闘日記」
- (11) アジア歴史資料センター、Ref. C09083513400、C09083513500「第一號戦闘略記 第一旅團東京鎮臺豫砲兵第一大隊」
- (13)、(52)、(57) 黒龍会本部『西南記傳 中巻一』黒龍会本部、1909年、573頁、588頁、591頁
- (14) アジア歴史資料センター、Ref. C09083957400「近衛歩兵第一聯隊第一大隊第一中隊戦闘日記」。但し、『薩南血涙史』198頁では、「3月7日に田原八幡神社に火を放つ」となっている。
- (15)、(25)、(54)、(63)、(74)、(93) アジア歴史資料センター、Ref. C09083957600「戦闘景況 出征第二旅團近衛歩兵第一聯隊第一大隊第四中隊」
- (16) アジア歴史資料センター、Ref. C09083506300「戦闘景況 近衛歩兵第一聯隊第貳大隊第貳中隊」
- (17) アジア歴史資料センター、Ref. C09083513500「第一號戦闘略記 第一旅團東京鎮臺豫砲兵第一大隊」
- (21) 加治木常樹『薩南血涙史』青潮社、1998年、「第八節二侯の戦」「第四編第一章木留方面」203頁
- (22)、(27) アジア歴史資料センター、Ref. C09083513600「第一號戦闘略記 第一旅團東京鎮臺豫砲兵第一大隊」
- (26)、(31)、(42)、(44)、(49)、(58)、(70) 日本史籍協會『熊本鎮臺戦闘日記二』財団法人東京大學出版會、1977年覆刻、77～79頁、83～85頁、91頁
- (28)、(41)、(45)、(51)、(65)、(75)、(84)、(92) アジア歴史資料センター、Ref. C09083963300「戦闘景況 近衛歩兵第一聯隊第二大隊第三中隊」
- (30)、(38)、(43)、(80) 全国近歩一会『明治十年西南ノ役 近衛歩兵第一聯隊第一大隊戦闘日誌』1933年複写、1997年復刻、7～8頁、10頁